

令和6年第13回教育委員会議事録

令和6年8月7日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会議事録

日 時 令和 6 年 8 月 7 日 (水) 午後 2 時 00 分 ~ 午後 5 時 26 分

場 所 教育委員会室

出席委員 教 育 長 渋谷 正宏 委 員 對馬 初音

委 員 伊井 希志子 委 員 前田 小百合

委 員 大川 康徳

出席説明員 事務局次長 岡本 勝実 庶務課長 渡邊 秀則
生涯学習担当部長 学校 ICT 担当課長

特別支援教育課長 河合 義人 済美教育センター長 古林 香苗
就学前教育 支援センター所長

済美教育センター 加藤 則之
統括指導主事

事務局職員 庶務係長 佐藤 守 担当書記 松尾 菜美子

傍 聴 者 20 名 (別室 23 名)

会議に付した事件

(議案)

- 議案第 48 号 杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和 7 年～10 年度使用）の採択について
- 議案第 49 号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和 7 年度使用）の採択について

目次

議案

- 議案第 48 号 杉並区立中学校において使用する教科用図書
（令和 7 年～10 年度使用）の採択について・・・ 4
- 議案第 49 号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校
及び中学校の特別支援学級において使用する
教科用図書（令和 7 年度使用）の採択について・・・ 61

教育長 それではただいまから、令和6年第13回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。本日、傍聴の方より撮影・録音の方の申請が出ておりますので、これを許可いたします。それでは、本日の会議について事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 本日の議事録の署名につきましては教育長より事前に對馬委員との指名がございました。よろしくをお願いいたします。続きまして本日の議事日程についてでございますが、事前にご案内の通り、教科書採択に関する議案2件を予定しております。以上です。

教育長 それでは審議に先立ちまして、傍聴の皆様方に申し上げます。会議中の私語、雑談等のご遠慮くださいますようお願いいたします。なお、騒がしい場合などは、傍聴規則の規定に基づき、ご退出いただく場合もございますので、ご注意ください。それでは、本日の議事に入ります。本日は、教科書の採択を予定しておりますので、委員の皆様のご意見を伺いながら、最終的に委員会としての結論を出していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは議案の上程、説明は、事務局よりお願いいたします。

庶務課長 それでは日程第1、議案第48号「杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和7年から10年度使用）の採択について」を上程いたします。済美教育センター所長からご説明を申し上げます。

済美教育センター所長 私から、議案第48号「杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和7年から10年度使用）の採択について」をご説明いたします。今年度採択を行う教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律等に基づき、令和7年度から令和10年度までの4年間使用するものとなります。文部科学省の検定に合格した10教科、16種目、71種類、142点の教科用図書からご審議いただくこととなります。続きまして、調査事務についてご報告いたします。教科用図書の調査研究については、教育委員会が任命した委員による教科書調査委員会を設置し、規則、要綱、手引きに基づき、すべての教科用図書につい

て、専門的な見地から調査研究を行いました。その際、種目別の調査を各種目別調査部会へ、学校別の調査を各中学校へ依頼し、その報告書をもとに2回の協議を行って参りました。その協議にあたっては、教科書展示会で区民の皆様からいただいた区民アンケート 209 通を参考にしております。また、2回目の調査委員会においては、保護者の方にもご参加いただき、ご意見をいただいたところです。調査研究結果につきましては、7月26日に、教科書調査員及び種目別部会長から教育委員へ調査報告書とともにご報告させていただきました。提案理由ですが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、区立中学校で使用する教科用図書を採択するためがあるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それではこれより審議をお願いいたします。審議にあたりましては教科書の発行者名を明らかにして、各委員にはご発言いただくようお願いをいたします。それでは最初に国語について、お願いいたします。

伊井委員 はい、伊井でございます。国語は4者、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書の4者でございます。国語はほかのどの教科、例えば数学の問題文を読む、漢字検定の問題の指示に沿って回答するなど、学習にとどまらず、生活していく中でも重要な教科だと思います。日常生活において、いわゆる本を読むだけでなく、新聞、取扱説明書、メールでもLINEでも読み取って理解することは大切な作業になると思います。思考力、判断力、表現力、すべてに大切であり、この三つの力を鍛えるのにも有効です。また、読む、話す、聞く、書くの4技能は主体的、対話的で深い学びのどの活動にも必要だと痛感します。各者、学びを深めるために、各領域、詩、物語、小説、古典、説明文など、教科書のために書き下ろされた作品も多くあり、厳選して、今回は学習指導要領は変わりませんでした。デジタルコンテンツも数を増やしたり、内容も充実させてきています。近年の傾向として、物語や小説が減っているような印象を受け、寂しい気もいたしております。

が、例えばプレゼンテーションを行う、レポートを書くとなると論理的思考が必要になるわけで、そちらに寄るのも必然ともいえると思います。そのようないわば説明文、論述文も内容が極めて面白いものが載っています。特に論理的に考えることについて力点を置かれたものとして、例えば東京書籍では、「プレゼンテーション」としてページを割いていますし、三省堂は「話し合いの形式を選ぶ」というページで、ディベート、パネルディスカッション、ワールドカフェ、オンラインの形式を紹介しています。これは社会生活に生かすという巻末のセクションですが、ほかにも著作権と引用、メモの活用、質問の仕方もあり、まさに国語の学びが、生活や社会に繋がることを実感しますし、あわせてディスカッションにも力を入れているなという印象です。東京書籍のインターネットの活用、説得力を高めるという単元での「黄金の扇風機」、「サハラ砂漠の茶会」などは、とても面白く、中学生はどんなふうに捉えるのか、興味深く思いました。「さんちき」もとても興味深い話でした。でも、やはり光村図書の意気込みやこだわりはある意味揺るぎないものを感じます。「はじまりの風」、理科的要素もある「ダイコンは大きな根?」、「西の魔女が死んだ」、「大人になれなかった弟たちに」、いくつかの教科書にも出ていますが、向田邦子さんの「字のない葉書」など名作がたくさん集められています。また構成も見事だなと思います。教科書アンケートにこんなことが書かれていました。「昔習った教材が今もあり、残してくれてうれしかった」と書いてありました。どの作品なのかなという気がいたしましたが、「本の世界を広げよう」の中で、デジタルコンテンツ「研究の現場によろこそ」へアクセスしました。バッタの研究の動画でしたが、その様子と、バッタの音など、圧巻でした。れる、られるの言葉遣いや「敷居が高い」の調査も面白かったです。各領域、物語の種類や論説分など、バランスが良いのと、語彙ブックなど、国語をしっかりと学べる作り、挿し絵、写真、表紙、紙質、文字も含め、現行の光村図書の教科書が、いいのではと私は思います。以上です。

教育長 はい。ありがとうございます。続いていかがでしょう。前

田議員。

前田委員 はい。前田です。今高校生になる娘がおりまして、自分が使った光村図書の教科書を見ていたところ、やはりいくつかの作品において、この題材の時にこんなふうに教室で盛り上がったんだとか、その時の情景とともに話をしてくれたことがあります。作品が持つ力とそれによって子どもたちの中に共通の記憶が残るということを感じ、改めて教科書の力を感じました。子どもたちに読んで欲しいコアとなるいくつかの作品が、教科書すべてに共通しているものがあるということがわかりました。例えば1年生の「少年の日の思い出」や、2年生の「走れメロス」などです。それ以外の部分で、独自性が出ていたなというふうに教科書を見ながら思っておりました。その中で光村図書が、紙面にいろんな情報が載っていることがわかりました。すごくたくさんの情報がありますので子どもたちも関心を引くなと思いましたが、あとは作品の1ページ目に、その作品を通してどんなことを学ぶのかということについて記載がされていまして、学びの方向性がわかりやすかったなというふうに感じておりました。私は光村図書が良いなというふうに感じました。

教育長 はい。ありがとうございます。では大川委員。

大川委員 大川です。私も区民のアンケートを拝見すると、特に東京書籍と教育出版は、恐らく生徒さんなのかなという方から、新しい読み物に非常に興味をそそられている、というようなことが見て取れました。実際に拝見しても、楽しく本を読むというようなことにウエイトがとて教育出版、特にですね、置かれてるよう感じたところでは。レポートや小論文などの説明的文章を書くことも社会に出てからとても大切なことだと思いますので、そういった目から見ると、光村と三省堂が秀でていのかしらと。光村は、巻頭に「思考の地図」という部分を置いて、論理的な位置付けを意識させようというふうな構成にしている、また末尾の方にも「説明的な文章を読むために」、というふうな形で体系的な整理がされて、これは私が今こう見直してみてもとても参考になる内容でした。これが1年、2年、3年と同じ体裁を取っ

ているっていうところも、子どもたちが安心して読み続けられるんじゃないかと感じました。三省堂も、冒頭に同じようにやはり「思考の方法」というところを置いていますし、各学年で「読み方を学ぼう」というところには、論理や情報の扱いにきちんと触れていました。なので、両方とも、とても秀でているなと思いましたけど、一覽性でいうと光村の方が、もしかしたらわかりやすいのかなという感じです。三省堂は巻末資料がものすごく充実していて、これはさすが三省堂さんだと思って、手元に置いておきたいなというふうに思ったぐらいです。私は以上です。ありがとうございました。

對馬委員 對馬です。今、大川さんの話を聞いて、私も隣でわかるわかるって。三省堂の資料なんかは大変面白くて、本当に大人の私も手元に置いておきたいような、素晴らしい資料が付いていたと思います。4者の中でそうですね、例えば東京書籍が紹介している「読書の発展」とか私は非常に良いものもあるなと思うんですけども、ただ光村の読書活動って結構、1年生の時に「研究の現場によろこそ」ってあって、2年生で「自分らしさを認め合う社会」、3年生で「本は世界への扉」、とりわけ3年の時に今までの3年間の読書を振り返ってこれからの読書について考える活動が入っていて、非常に今まで学んできたことを次へまた見通して、という意図が非常に感じられてよかったなと思います。それから光村は、今回随筆が結構多くて、随筆とか論説文に新しい教材が入ってまして、それが身近でかつ、これからの話題というんでしょうか。今の話題っていうか、そういうものも多かったので、これから学んでいくにあたりまして、今使っている教科書ですけれども、光村の教科書を使っただくと、学びやすいのではないかなと感じました。

教育長 はい。ありがとうございました。私からですけれども、今光村という意見が大変多かったんですけども、国語の教科書の場合、やっぱり文学作品だったり、読むことに関する教材はもちろんなんですけれども、やっぱり表現領域、話すこと、聞くこと、書くことの単元をいかに作り込んでくるのかっていうところで、

教科書会社の編集者の力量が表れてくる。また教科書会社の姿勢も見られるのではないかなというふうに思っております。東京都の資料を参考にそれぞれの単元の割合を見てみますと、特に、話すこと、聞くことの単元に比較的多く力を入れているのが教育出版、光村。また、書くことの領域について力を入れているのが光村と三省堂で、大川委員からもご指摘ありましたが、実用的な文書を書かせる単元が多いのは特に光村と三省堂っていうことになっているような気がいたします。一方で、文学等々ですね、国語の教育の中でやっぱり情緒的なことをしっかり扱うってことも重要だというふうに考えております。そういった情緒を扱う文学的な文章や、詩歌などの扱いが多いのは、教育出版と光村というようなことでございます。また、我が国におけるですね、言語文化に関する指導事項が多い扱いをしているのも、教育出版、光村というようなことになります。総合的にこう見ると、バランスが良いのはやっぱり光村の国語の教科書かなというふうに私も判断します。それでは、国語につきましては皆さん、光村というお声が多いですので、国語については、光村図書で決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは、国語については光村図書と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして書写について、よろしく願いいたします。

對馬委員 書写もやはり4者ございました。東京書籍、三省堂、教育出版、光村の4者でした。今回の教科書からどの教科もなんですけども非常に二次元コードというのが充実しているなというのが、今まで使っていた教科書との大きな違いかなと思いますが、光村図書の二次元コード、他の教科書のと違って、真上からじゃなくて、左からの筆遣い、左斜めになっていうのかな。それが見やすく、これが非常にやっぱり筆遣いとして見やすいなと感じました。それから光村の場合は硬筆と毛筆の中の硬筆の部分はちょっと取り外せるような形にもなっているので、これを使いやすいかなと思いますので、現在も光村図書を使っているんですけど

も、私はこれを継続して使ってもらったら良いのではないかなと感じました。

教育長 他にいかがでしょう。はい、前田委員お願いします。

前田委員 はい、前田です。私も對馬さんがおっしゃっている、二次元コードの筆遣いの動画のところはやはり光村がすごく特色がありまして、先日先生方のご意見の中でも、やはり角度の動画がとても良いのではないかということで意見がありましたので、変わらずに光村が良いんじゃないかというふうに思っています。

教育長 はい。他には。

伊井委員 伊井です。光村は見開きに、「ペンから文字が生まれる。その一つ一つがきみの呼吸を映し出す。文字と文字が手をつないできみの心をきっと伝える。」というメッセージがあります。書道家である知人が、常日頃から授業を見ていただいているんですけども、「書は呼吸」と伝えていらっしゃったので、そのことを思い出しました。手書きの良さも生徒さんたちに思い出してもらえたら、そういう機会になると良いなと願っています。以上の理由で、皆様に賛成で、書写も光村が良いのではとっております。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。はい、大川委員。

大川委員 はい、大川です。皆さん光村を推してしまして私も同様です。先ほど冒頭で紹介のあった教科書調査委員会の報告を拝見しても、現在まで使っていられる先生方から問題の指摘等はないと思いますし、そうすると、実際に使いやすい教科書なんだろうなと思います。賛成です。

教育長 はい。他よろしいですか。書写の場合は、中学校では行書を扱って、それを実際の自分たちの書く活動に生かすってことが大きなポイントになっていて、そういったことではどの者も、そういった工夫はよくされているのかなと思います。今それぞれの委員がご指摘になった通り、やっぱり二次元コードでの運筆の見やすさですとか、あるいは硬筆の練習帳が分かれていて、使いやすいみたいなこと、光村がやっぱり使いやすいのかなというふうに私自身も、考えるところでございます。それでは書写につ

きましては光村図書と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは書写につきましては光村図書と決定いたします。

庶務課長 はい。それでは次に、社会（地理的分野）についてお願いいたします。

教育長 はい。では大川委員お願いします。

大川委員 社会の地理について、大川からお話しいたします。社会の地理は4者ございます。4者を比較して見てみると、帝国書院が、海外の方は写真を見せて、それぞれの海外の特色を最初に紹介していく。それから、国内の場合は、地域ごとにイラストのマップみたいな感じで、旅行に行くときにも使えるようなイラストマップを最初に置いて具体的なイメージを持たせているというような特徴がありました。それから所々用いられている地図にも写真番号が入っているので、一つのページを開いてみたときに、この場所の解説がこの場所のどこなのかっていうのがすぐにわかるような形で工夫がされていたのが、このほかにはなかなかあんまりないような印象を受けました。これらの工夫から、私は帝国書院が、楽しく地理に触れながら理解を深めるための教材として工夫がされており、よろしいのではないかと感じたところです。

教育長 はい。ありがとうございます。続いていかがでしょう。

對馬委員 そうですね。4者見て、どれもカラフルで楽しく勉強できるなという感じはいたしました。私も現在使ってもらっている帝国書院ですけれども、写真も地図も統計も非常にわかりやすいので、学びに活用しやすいのではないかなと感じました。コラムとかなんかも非常に充実しているので、課題解決型の学習にも使いやすい教科書なのではないかなと。やっぱり写真とか統計とかを見て、課題解決していく、学習者が自分で主体的に学習しやすい教科書と感じました。

教育長 はい。ありがとうございます。他いかがですか。はい、お願いします。

前田委員 はい、前田です。私も4者見させていただきまして、本当に大人になった今だからこそ、また学び直したいと思うような

すごく魅力的なコンテンツがたくさんあると思いました。その中で、特に帝国書院がすごくわかりやすいというか、情報量も多くていいなと思いました。というのも、今、世界との関係なくしては存在できないという中で、1ページ目にSDGsとの繋がりがあまして、地域のより良い発展を目指す日本とか世界の例が出ていまして、ここはすごく特徴的だったなと思いました。また14ページのところに、日本の姿という章があったんですけども、世界の中での日本の位置っていうのを4ページにわたって丁寧に説明をしております、日本というものを捉えるときに世界との関係がすごく重視して書いてあり、子どもたちにもわかりやすいんじゃないかと思いました。もう1点が18ページのところで日本の領域について丁寧に説明がされておまして、北方領土や竹島、尖閣諸島について、時代ごとにどんなふうに領土が変わっていったかというところが丁寧に説明されている部分がほかにはない特徴的な部分かなと考えております。

伊井委員 今、地理的分野に関しまして、いずれも皆さんからお話ありがとうございました。4者とも学習問題を立てて、課題解決型の授業ができるような作りになっています。各者、巻頭でどの会社もSDGs、持続可能な社会を目指すという方向性を強く表現し、地球的課題に向き合う姿勢が顕著でした。教育出版のものですけれども、真ん中あたりに「宇宙からとらえた日本列島」ということで、たたまれた両扉の左側がまさに今はパリ五輪が開かれています、オリンピックはどこで開かれるのだろうかという考察。右扉はジオパークって何だろうかという題目で、日本国内に46か所あるジオパークが紹介されていて、学びの広がりになっているなと思いました。それから東京書籍では、みんなでチャレンジ、チェック&トライ、探究のステップ、スキルアップなど、活動の機会を設けて、随所にいろんな工夫が散りばめられています。それから東京書籍は、特に日本の各地方ごとの単元に入った時に、「聞かせて中学生」という、中学生からのコメントがあり、学習を身近にしていると思いました。各者、工夫がされています。中でも、帝国書院の教科書は、調査委員会からの報告にもありましたが、デジタル

コンテンツにおいても、東京書籍 351、帝国 1,705、と数量も多く充実していて、活用が期待できると考えました。これらの理由から、私も帝国書院を推したいと思います。帝国書院はやっぱり日本の単元になったときに、丸々1ページ使って大きい地図が入っていて、それがとても魅力的だったので、さすが地図の会社だなというふうにも思いました。帝国書院が良いと思います。

教育長 他よろしいですか。はい。私もですね、帝国書院がいいのかなというふうに思いますが、導入のページでの工夫を見ると、教育出版の学習の視点の示し方なんか非常にわかりやすくて良かったのかな。あとですね、それぞれの節のまとめる活動等を見ると、日本文教出版が、設の問いを1ページで表現しているっていうのは、とてもわかりやすいのかなと。あとですね、全体的に問いの構造がですね、日本文教出版の教科書は非常に良いのかなというふうに思います。それから前田委員から日本の領域の問題のご指摘ありましたが、特に北方領土のところに着目してみると、北方領土の歴史的な変遷が地図で詳しく説明されているのは、日本文教出版と帝国書院ということで、日本文教出版か帝国書院の教科書が良いのかなというふうに私自身は考えたところがございます。ほかの委員の皆さん、現行の帝国書院を推す意見が多いんですけども、帝国書院でよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは、社会地理的分野につきましては、帝国書院と決定いたします。

庶務課長 はい。続きまして、社会（歴史的分野）についてよろしく願いいたします。

前田委員 私の方では、帝国書院と東京書籍が素晴らしいなということで二つ、比較をさせていただきました。東京書籍に関しましては、スキルアップという欄があったり、深めようというページがありまして、主体的な学び、いわゆるアクティブラーニング活動に役立ちそうだなというふうに感じました。あとコンセプトマップやフィッシュボーンを使って、知識や概念を構造化して整理するやり方の提示というのがありまして、特徴的だなと思いまし

た。これは子どもたちの普段の活動ももちろんなんですけれども、今後社会に出て、いろいろ複雑な事象の整理をする際に役立てる力をつけることができるなど感じられたのが特徴的でした。もう一つは帝国書院に関してなんですけれども、これほかの教科書でもそうなんですけれども、特に帝国書院は小学校で学んだこととの接続が特に丁寧だなどというふうに感じました。また特徴として、章の初めに、小学校で学んだ人物と主な出来事という欄がありまして、各時代にタイムトラベルというイメージがあったり、その時代の生活の様子がイメージできるような、そういう絵があったりしまして、これは大変特徴的だったなどというふうに感じております。あと歴史を探ろうというページもありまして、地域を軸にしまして歴史を紐解いているっていうのがすごく面白くて、本当に読んでいてすごく楽しいなと思うような、作りになっていました。ということで、皆さんすごくわかりやすく面白いコンテンツではあったんですけれども、現行の帝国書院を推したいと思っております。

教育長 はい。他いかがでしょう。

對馬委員 歴史は結構数が多くて9者ございまして、非常にバラエティに富んだ9者だったなと思います。というのは、ほとんどカラーページがないものもありましたし、デジタルコンテンツが豊富な会社もあれば、ほとんどデジタルコンテンツを使っていないところもありました。デジタルコンテンツに関して申し上げますと、やはり今、1人1台タブレットを子ども達は持ってまして、教室の学習でもそうですけれども、家に持ち帰って復習をしたり、予習をしたり、自分で勉強する時にも使ってますので、やはり、まず一つのラインとしてデジタルコンテンツが充実している方がいいかなと私は、教科書の方にですね、充実していてくれると、自分で学習しやすくていいかなと感じます。そういった面で見えていったときに、やはり前田さんもおっしゃいましたけども、東京書籍とか帝国書院とかあるいは教育出版とか、その辺りは自主的に学習できるようなデジタルコンテンツであったり、そういったものが充実しているなと感じました。特にですね、帝国書院の場

合には、単元の導入の扉絵というのがやっぱり時代のイメージをつかみやすく、見開きでイメージがしっかりとつかめる。そして章末の振り返りのところでも、やはり様々な手法でまとめているので、これはそのまとめ方ということの勉強にもなると思いますし、時代の特色とかいろんなほかの時代との比較などもできて深い学びに繋がると感じました。二次元コードにつきまして節ごとに配置されているんですけども、自主的な学習に使いやすいと思いますので、写真やグラフ資料も豊富にございますし、帝国書院はバランスの良い教科書かなと私は思います。

教育長 はい。では大川委員。

大川委員 大川です。私も歴史、見比べてみて、私は帝国書院と、あと山川が素晴らしいんじゃないかと感じました。まずその前に、いろいろな会社、9者ありまして、同時に区民からのアンケートも一番多い科目が、この歴史。皆さんの関心の高さというのが非常に良くわかりました。その分、いろいろなご意見も本当に多種多様で、特定の教科書に偏らず、これが良いんじゃないかあれが良いんじゃないかというのは、同じように分かれているように感じたので、これはいろんな意見を踏まえながら、バランスよく教えていけることができる教科書がよろしいのではないかと思います。そういった面を踏まえて見てみると、帝国書院はまず、見開きのイラストとか、先ほど對馬委員からもご発言ありましたけれども、二次元コードなどから展開していくという部分が、ものすごくボリュームがあって、これは自分で能動的に、自発的に興味を持っていろいろ掘り下げていこうという子どもたちの期待に応えていくような教科書だと思います。当然学校の教室で教えられることって限られますので、何か興味を持った、好きになった子どもがポチッと押して、見てみよう。そういうコンテンツの豊富さっていうのは、抜きん出ていると思います。私も見てみたら、今の日本特有の戸籍。戸籍は、大本が律令時代にまでさかのぼり、その頃とほとんど同じ体裁のが今使われている、体裁というか、オリジナルが一つなんですね、ということがよくわかる写真が掲載されていて、関心を持ちました。あとは山川は、写真が同じよ

うに充実していて、それからさすが昔からの歴史の山川というふうに、書き込みというか注釈がものすごく多いですし、本文の掘り込み方っていうのもすごくいっぱい記載があって、情報密度の濃さ、もうさすがだと思いました。歴史好きの子どもを育てるには山川がいいんでしょうけれども、二次元コードなどを見て興味関心を高めていくには帝国書院の方が、と思ったところです。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。

伊井委員 はい、皆様のお話を聞きまして、今大川委員の方からも山川のお話が出ましたが、私も山川の方を拝見して、高校の時に見なれた山川の教科書がとても興味深かったです。見開きで完結しないページもあって、文字が幾分小さい気もしましたが、とにかく詳しく書かれていて、読み込んでいくと、歴史の世界へ引っ張られるような感じがいたしました。歴史へのアプローチ、地域からのアプローチというコーナーには、さらに掘り下げられた深い学びがあり、大変勉強になりました。その中で、帝国書院は、巻末の年表に、日本と海外の交流が矢印の中に絵で描かれていて面白く、また歴史の舞台を訪ねようという日本地図も楽しく、文化財の知識も大変役立つといいなという希望が持てるなと思いました。帝国書院の巻末にこんなメッセージがあって、「歴史は、過去との対話だといわれます。ある出来事とその前の出来事とが、何かの関係でつながっているのではないかと推理し、その謎を解いていきます。そのとき、年表をつくってつながりを整理していくと、答えが探しやすくなります。」とあります。帝国書院は、教科書の右のところに年表がありまして、これは東京書籍にもあるのですが、今どこを勉強しているかということがその年表でもわかります。ただ小さなコラムとして「歴史プラス」、「未来に向けて」もありますし、やはり現行の帝国書院のものを、使い込んでいくことで、さらに学びが広がるのかなというふうに思いました。以上です。

教育長 はい。他、追加でご意見等よろしいですか。

歴史の教科書の選び方ってとても難しいっていうふうに私自身思っています。中学校の授業で、やっぱりチョークアンドトーク

だとかってということで、教師の方が一方的に解説するような授業で、生徒は一生懸命こう、板書したものをノートに写すような、旧態依然とした授業形態への批判が一番多いのは歴史で、どうしてもテストも暗記中心になってしまったりっていう弊害の指摘を受けやすい教科だというふうに思っています。だからこそですね、やっぱり子どもたちが興味深く、対話しながら活動できるような教科書選びというものが、歴史の教科書を選ぶ上では非常にポイントとしては高いのかなというふうに思います。何人かの委員からご指摘ありましたが、その一つがやっぱり、判断基準として例えば二次元コードの充実という点は、今はやっぱり GIGA タブレットがある今この時代だと、重要なポイントになってくるのかなというふうに思います。そういう観点で見ると、東京書籍、教育出版、帝国書院はそういったものが充実して、子どもが興味深く学習できるような形がとられているのかなというふうに思っています。また、探究的な課題解決のような学習スタイルを多く取り入れているのは、東京書籍の教科書なのかなっていうふうに思っています。また一方で、帝国書院はですね、アクティブ歴史みたいな、そんな単元があって、当時の人々の意見を多面的多角的に考察するようなテーマなんか盛り込まれていて、従来の一方通行の授業というよりは、多様な活動ができるような授業展開になっている教科書なので、私はこの点もすごく魅力なのかなというふうに感じているところであります。皆様のご意見をお聞きしていると、帝国書院を推す声が多いということですのでけれども、帝国書院ということによろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは歴史につきましては、帝国書院と決定いたします。

ここでなんですけれども、少しですね、別室の方の音声の調子が悪いということですので、休憩を挟んで、調整の時間を取らせていただきたいと思いますので、ちょっとしばらく、10分程度休憩の時間を取らせていただきたいと思います。

(休憩)

教育長 それでは休憩に引き続いて再開いたします。

庶務課長 それでは引き続きまして、社会（公民的分野）について、よろしくお願ひいたします。

大川委員 社会の公民について大川から述べさせていただきます。公民は6者ありました。公民分野は身近な社会から国際社会までの広がりについて、子どもたちが将来を生きる力を養うことができるよう、どの教科書を見ても、様々な工夫を凝らしていることがよくわかりました。例えば、身近な学校の校庭の使い方、または公園の使い方、それから避難所でどんなルールを作ったら良いか。またはマンションの管理の問題、それからまちづくりまで、様々な現実の社会で起こることを題材にして、ルールの大切さとかですね、それから既定の今あるルールが、おかしいなと思ったら変えていこうというような、バージョンアップの方法だとか、それについて触れているというのも、共通点でした。それから裁判についても、裁判員裁判を通じて、模擬裁判をしてみようというような試みを、それぞれの会社が取っていたので、私はそこに着目して全者比較してみることに、特にそこを細かく見ていったところでした。多くの模擬裁判の題材が、裁判の対象となっている被告人の言っていることが本当なのか嘘なのかというのを、それぞれのチームに分かれて、考えましょう、有罪か無罪かということ、この人の言っていることは本当なのかしらというのを、証拠から認定していこうという、事実認定という分野で、そこで結論が左右するようなケースが多く取り上げられていて、これはこれで中学生がいろいろな話し合いをするのに、謎解きのものがあるのがあって、楽しくできるんじゃないかなと。または、証拠というのがとても大切なんだよっていうのをわかってもらえるということでもよろしいのかと思いました。その中では、日本文教出版のものは、刑事裁判の流れですね、手続きがきちんと進んでいくっていうのをシナリオ的に作ってあるということが、教えやすい特徴があるのかなと思いました。あえて決まった結論はないよという方向に導こうとしているので、それもいいんじゃないかというところでした。ただこの日本文教出版の題材を見てみると、それもすごく面白いんですけど、海外のカラマーゾフの兄弟というですね、

大長編。4人からなる兄弟の中で誰が父親を殺したんだというような文学作品をテーマにしている、これは編集者の遊び心というか、恐らく小説を読んでも最後まで絶対わからないような謎解きな本を題材にしている、むしろ社会より、国語の先生が見たらこれはすごいなと思うような、教科書に熱が入っているんじゃないかしらと思いました。そうじゃないものとして、むしろ教育出版と帝国書院の何を裁判の題材とするかっていうケースを見ると、これは法律解釈によって結論が変わるものをあえて出しているんですね。つまり誰が犯人だったかっていうことだけじゃなくて、刑法という法律をどう考えるかによって、有罪になるのか無罪になるのか、正当防衛が成立するのかなど、そういったところまで踏み込んだもので、実はこれ、私も大学の時に勉強した判例じゃないかと。実際取り出してみると、まさにその通りの英国騎士道事件とかですね、すごく有名なもの、そのものを題材にしていたり、または強盗致傷という結果について、きちんと教科書で議論をするようなテーマがわざと書かれていたり、これは中学の先生がここまで踏み込んで教えるっていうことはできないでしょうけれども、むしろそういう目できっちり作り込もうとしている編集者の人っていうか、気持ちをすごく感じた2者でした。この二つの会社も見てみると、法教育について、特に帝国書院は法教育についてのインターネット上の資料などもものすごく充実していて、おそらく法教育っていう分野を専門に取り扱っている実務家が相当関与しないと、これだけのものはできないんじゃないかと思うような力が入っていたといったところなんです。あんまりここの分野だけを中心にして検討することはできないと思いますけれども、イラストに描かれた身近な生活をいつも出発点にして各章ができていてですね、みんなの前にこういう社会があって、これが公民では問題、こういうふうな課題が出てくるっていう問題解決型の構成にしている。それが、街から始まって国際社会まで同じようにできているというところで、帝国書院がよろしいんじゃないかと思ったところです。

伊井委員 伊井でございます。6者ありましてどの会社も構成資料

に力を入れていると思いました。自分自身が学習している状況でした。本当に中身が濃くて。読ませていただきましたが、その中で、単元ごとの課題が示され、問いが設定されていて、見直し、振り返りと進む流れが実践できるような学習の形が確立されている帝国書院と東京書籍のものがインパクトがありました。学習の前に、先ほど大川委員の方からもお話がありましたけれども、手書きのまちの様子が描かれた絵が提示されていて、写真や説明など何もない状態で、生徒さんたちが見て考えてみる。例えば二部の2章では、市長選挙という設定で候補者の主張、住民の意見が想定されています。グループ活動、ディスカッションを始め、思考ツールを活用するなど、生徒が学習しながら、いろいろ考えていくのだろうなあと思います。章の終わりには、振り返りがあり、更に関連する章に向けて、探究学習のテーマを考えるなど、まさに主体的、対話的で深い学びに繋がっていると思いました。その他アクティブ公民というコーナーでは、多数決で決めて良いことか考えよう、として、学生としての身近な問題を題材にしたり、あるいはマンションの騒音問題について、ロールプレイングで住人の事情と主張を考えようなどの取組も興味深かったです。成年年齢が18歳となりましたけれども、2022年4月から施行され、選挙で投票できる年齢が18歳となりました。公民の教科書を拝見して、中学生もこの責任ある年齢に迫っている未来の社会の担い手であることを実感しました。東京書籍では18歳へのステップとのページがあり、18歳でできること、20歳でできること、など、契約と支払い方法のあれこれについて考察しています。帝国書院の教科書でも同様に、18歳への準備のページで、契約について考えよう、ライフプランから金融を考えようとの取り組みページがありました。衆議院選挙の年齢別投票率のグラフを載せたり、中高生による少年議会の写真があったり、社会参加に向けて、メディアリテラシーへのアプローチ、多様性、インクルーシブの面など、広く取り上げていること。また、巻末の神戸市の防災減災を通じた社会参画を読むと、杉並区でも各校に設置されている震災救援所で、地域に加え、昼間学校にいる中学生は大変期待される

存在なんですけれども、そういった力があることから、通じるものを感じました。最後のページに、「もっと広い世界へ、地理、歴史、公民を学んできた中学生に向けて、夢を追い続けて、広い社会に出ようとするあなたたちの成長それこそが、人類の夢の実現になり、より良い幸福な社会の実現に繋がります」と書いてあります。このメッセージは、杉並教育ビジョン2022の「みんなのしあわせを創る杉並の教育」にも通じるものと感じ、帝国書院の教科書が良いのではないかと感じております。以上です。

教育長 はい、他いかがでしょう。

前田委員 前田です。公民6者からありまして、それぞれ見させていただきまして、自分たちの社会は自分たちで作ることができるのだということが、身近な議題から力強く示されている教科書たちだったなと思うんですが、その中で、帝国書院と東京書籍が印象的でした。特に読んだところとしては、民主主義についてというところに関して、東京書籍では決まりを守るというまず目的と、その決まりは変更することができるということを丁寧に示されていたことが、子どもたちにとって、自分たちが作り手であるということが示されていてとてもよかったなと思いました。帝国書院にも、民主主義のあり方、あと多数決とその問題点ですね。少数の意見が切り捨てられてしまうという問題点についてはどう考えたらいいのだろうかという問いとして、示されておりました。あともう1点は、対立する議論についてというところなんですけれども、帝国書院、東京書籍いずれも多様な人には多様な視点があり、様々な意見があることを丁寧に説明していました。特に帝国書院においては、どの視点で語っているかということが丁寧に説明されていて、これから子どもたちが、様々な人にはその背景がちゃんとあるんだということを前提にして、複雑な形で向き合うときの対話のヒントになりそうだと感じまして、杉並区が目指している対話を大事にするというところにも通じるなと思いましたので、帝国書院が良いのではないかというふうに考えました。

教育長 はい、ありがとうございます。

對馬委員 はい、對馬です。公民、どの教科書もこういうふうに勉

強できたらいいなと思えるような教科書だったと思うのですけれども、対話的な学習が多く取り入れられているのが東京書籍、教育出版、帝国書院だったかなと思います。教育出版の教科書は特にですね、経済と国際社会の分野が充実しているように感じました。東京書籍の特徴については今前田さんもおっしゃった通りだと思うのですが、私は帝国書院の中のアクティブ公民というコーナーが自分事としてとらえやすいトピックが多くて、例えば一人暮らしをするにもいくらかかるんだろうとか、パン屋さんを起業してみようとか、そういったことが中学生ならそのぐらい考えられるかなっていう、自分ごととして捉えやすいトピックがありましたので、これは面白い学習、興味を持って学習してもらえるのではないかなと思いましたので、帝国書院が良いのではないかなと思います。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。

公民的な分野ではですね、現代社会の見方として、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義、希少性、協調、持続可能性、そういったものを考えながら、学びを深めていくのが、この教科の本質になってきます。地理的な分野、歴史的な分野の学びを踏まえた上で、自ら問い、考え、判断し、行動する子どもたちが、より良い社会づくりに取り組むための学びが、まさに公民的分野の学習と言えると。そうすると、今様々、委員からご指摘がありましたけれども、やっぱり、自分ごととして社会問題を考えて取り組むことができる内容、また、実社会に興味を持たせる工夫がある教科書がやっぱり良いのではないかなというふうに思います。伊井委員、對馬委員から帝国書院のアクティブ公民のところのご指摘がありました。私もまさにですね、この部分は中学生が、現実社会の問題を自分ごととして考えて学びを深めるのにとってもいい単元、教材だというふうに思っていますので、私も帝国書院が良いのかなというふうに考えたところであり。公民分野については帝国書院ということでもよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは社会（公民的分野）につきましては、帝国書院と決定いたします。

庶務課長 それでは次に、地図についてよろしくお願ひいたします。

伊井委員 はい、伊井でございます。地図は2者。帝国書院と東京書籍でございます。都の教育委員会作成の調査研究資料には、中学校学習指導要領解説、社会科の目標のところの抜粋で、「情報を読み取る技能に関わる地理的分野の学習で用いられる資料には、地図や統計写真など様々あるが、最も重要な役割を果たしているのが地図である。現在のように、地域間の交流が盛んな時代においては、社会的事象や位置や空間的な広がりなどを考慮して、地図上で捉えることは効果的であり、大切である」とあります。そのあとに出ている地図の数を比較すると、平面図では、東京書籍が320、帝国書院が385。鳥瞰図、その他の地図が、東京書籍が5、帝国書院が51。基本図で、世界と日本を合計したのですが、これが東京書籍が62、帝国書院が73。地形、気候、国土利用、資源、産業、貿易、人口、交通、生活、文化、歴史、その他の合計として、世界のものが、東京書籍は121、帝国書院は160。同じように日本のものは、東京書籍135、帝国書院174。索引は、世界のものが東京書籍1,358、帝国書院1,753。日本の索引は、東京書籍2,159、帝国書院が2,555でした。というわけで、これ合計すると、圧倒的に帝国書院の数が多いなと思いましたが。東京書籍のものも、地理院の地図、グーグルマップ、RESASなどデジタルコンテンツや統計的なデータを充実させていて、楽しいキャラクターなどを使いながら、大変学びを深めるのにいろいろな形で進化させていると思っておりますが、帝国書院の見なれている色合いや、山々それから平地などがよくわかるデザインの地図帳として、データ、資料も綺麗で見やすく、たくさんの情報が載っているのも、見ているだけでも大変勉強になったり楽しいなと思う点で、帝国書院のものが使いやすいのではと考えています。先ほど採択が決まりました地理、歴史、公民とも同じ者のものですので、それぞれにこの地図を使っていたり、それぞれで互いに引用されているような場面もあり、リンクし活用できそうです。調査委

員会の方から、鳥瞰図が多数掲載され、空間的に把握するという点からしても、理解の促進が図られているとの報告もございました。また修学旅行などの学習にも使用しやすい工夫がされているということも、軽くて丈夫な地図帳専用用紙が使われていて、3年間の使用に耐えられる作りで探究的な学びを進める意味でも有効な教材となっていること、そして地図でもやっぱり充実したデジタルコンテンツを活用できるんですね。なので、地図上での気づきをきっかけに、統計的に把握したり、他の分野の事柄と結びつけられるようになり、社会科の学習が深まるといいなと願っております。地図も帝国書院が良いのではと思います。

教育長 はい。他いかがですか。

大川委員 もうほぼ伊井委員が語り尽くしたと思うような感じなんですけれども、ヨーロッパとかアメリカ、北アメリカとかそれぞれ最初の章の一番最初のところで、俯瞰的というか、地球を上から眺めてるような図法を使って、また別のところで別の図法を使っている。地図の描き方が変わることによってこんなに印象って違うんだっていうのがよくわかるのが、帝国書院でした。2者なので非常に難しいところなんですけども、それに加えて、あえて見比べてみると、やっぱり杉並区の子どもたちが使うっていうことからしたら、身近なものが何かあるのかしらというところで、東京都のところを見ていくと、防災というテーマで、都市型水害に対する対応で、杉並のところにプロットというかですね、記号が入ったりとか、そうすると身近にある問題を地図上に落として考えることのできるきっかけにもなるのではと。帝国書院の方がよろしいんじゃないかと思います。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。それでは地図につきましては、帝国書院と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは地図は帝国書院と決定いたします。

庶務課長 それでは次に数学について、よろしく願いいたします。

對馬委員 はい。對馬です。数学は7者ございました。小学校との繋がりとか、既習事項の振り返りですね、特に小学校の算数から

数学になる、その最初のところほどの者も意識して、非常に丁寧に、ハードルを上げないようにしているなという印象がございます。やっぱり数学ってそんな難しくない、楽しいよっていうことを言っているんだらうなと。私はあまり数学が得意ではなかったので、みんなそういうふうに変えたからって好きになるかどうかはあれですけども、好きになって欲しいなっていう気持ちがすごく伝わるところは非常に感じました。で、現在教育出版の教科書を使っているんですけども、私たちこの採択にあたりまして、先生方からのお声もいろいろちょうだいしてまして、区民の皆様からの声をちょうだいして、それにアンケートの形のものにも目を通したり、先生方からのご報告を受けたりもしてはるんですが、種目別調査部会の報告の中に、現在使っている教育出版の教科書が、対話の視点に関する記述があまりない、対話するきっかけが少ないということと、振り返りがちょっと少ないなっていうようなことが書かれてまして、では他はどうなんだろうかと調べてほかも見、ただ教育出版の教科書が非常に使いにくいわけではなくて、比較的易しくて全体的には使いやすいと。デジタルの配置もいいし、他と比べると、ちょっと対話するきっかけが少ないかなというようにお話があったんですけども、では他の教科書でいいところはどこだろうかといろいろ見てみました。啓林館の教科書はちょっと導入のステップが高くて難し目なのかなと。こういうのがわかってくるといいのしょうけれども、いろんなお子さんがいますので、誰にでも使いやすいということを考えるとちょっと難しいのかなと思いました。そうしたときに、ちょっといろいろ見てみると、やはり東京書籍の教科書っていうのは結構使いやすいのかなと。章末に問題も A、B と 2 種類あって習熟度別の学習もしやすそうですし、デジタル教材がまた非常にやっぱり充実してまして、動画もあるし、対話シート、フラッシュカードとかヒントとか、とても丁寧にあります。それと、世の中との繋がりの特ピックっていうのが、また、面白い特ピックがたくさんあって、マイ教科書マップってところで、地域ごとに立体が見られる。これ二次元コードのところでなんですけども、東京都

を選ぶと東京の面白い特徴的な建築物とかが出て、例えば沖縄を選べば沖縄にあるいろんな建築物が見れるというところで、非常にこれ面白いなと思いました。日常や地域と繋がることのできる。そして、あと数学を使ったこんな仕事、例えばマーケティングアナリストの人はこういうふうに数学を仕事に生かしてるとか、ロボット開発者とか、牛乳の販売数の傾向とかをこうやって見てくとコンビニがこんなふうに仕事をしていてとか、そういったトピックもありまして、何で数学、こんな難しいの勉強するんだらうって思うような中学生もいるかと思うんですけども、そういうときにこういうふうに社会に出たときに役に立つんだよってということがよくわかるなと思いました。それから例えば、相似形っていうものの例で、スマホで拡大して見る、あれは相似形なんだよって。それから、スマホで写真を撮ることは多いと思うんですけど、この角度で撮るとこういうふうに映るよねみたいなことが書いてあるので、非常に身近に感じられる、数学が身近に捉えられるという点では東京書籍も面白いかなと思いました。

前田委員 前田です。私も對馬さんがおっしゃっていたこととすごく重なる部分がありまして、数学7者のいずれの教科書も小学校からの繋がりが大事にされていまして、学習者が学びやすさを感じられるという工夫が、多々見られました。現行の教育出版については、先ほどもありましたけれども、数学を使った職業について、他の教科書にもあったんですけども、多めにあるなという印象がありました。あと、工夫してノートを書こうというイメージがありまして、わかりやすいノートの書き方を学べるという点で、子どもたちにとって一つの分かりやすさを表現したノートの書き方という学びがあるなというふうに感じました。もう1点が東京書籍なんですけれども、数学は苦手意識を持ちやすい教科の一つであるというふうに私も感じておりまして、その点で、東京書籍はマスコネクトというテーマがあって、身の回りとの繋がりとか、社会との繋がりと、あと算数や他の数学の分野との繋がりを意識した構成になっていて、すごく学習者として身近に感じやすいんじゃないかというふうに思いました。あと、デジタルコンテ

ンツが豊富にありましたので、いろいろなレベルの学習者が自学する場合にもいいんじゃないかなというふうに思いました。あとは先ほどありましたが、種目別調査部会の中でも、東京書籍の評判が良かったというふうに伺ったので、東京書籍がいいんじゃないかなというふうに感じております。

伊井委員 私は図形を見るときに、デジタルコンテンツがどんな役割なんだろうということで、結構図形のところで、デジタルコンテンツを引っ張ってみますと、数研出版のものなんかは、動きがあってとてもわかりやすく面白かったです。立体をとらえるのにサンドイッチ用のパンとハムを何枚も縦に重ねているようにイメージを持たせたり、特に1年生の第6章の空間図形、投影図、展開図、扇形の面積の求め方のところなどは、ちょっと他の会社とデジタルの動き方が、回転してる感じですごく面白くて、こういうのがこれからもどんどん楽しく明確に使われていくようになると、数学ももっともっと楽しい世界になるのかなあというふうに思いました。ちなみに教育出版は丁寧なステップを大事にしているので、この三角錐のここなんですけれども、ワンクッション、アイスクリームの包み紙を開くとどうなるかというクイズを入れていて、三角形と、あとちょっとへこんだ形と、あと正解の半円に円がついているのと三つ、どうですかっていうのを聞いていて、スモールステップという点で本当に丁寧に進めていらっしゃるなあというふうに思いました。ですがやはりですね、東京書籍の様々なデジタルコンテンツは、やっぱりすごい量のコンテンツが出てくるので、それを上手く使いこなしていくといいなあと思うのと、各学年全てで代数、関数、幾何、統計の流れになっていて、配列がわかりやすいので、発達段階に応じた題材が選択されていて、ライン、円の導入にも身近な内容を取り上げて生徒の興味関心を引き出していますし、取り組みやすい構成となっています。調査委員会の方からもそういった形では大変使いやすい可能性のある教科書なのではないかというご報告もいただいていますし、例えば1年生の比例と反比例では、遊園地にできる行列を取り上げたり、データの活用では、サッカーチームを強くするために、

チームの分析を行っていたり、身近な問題に数学を繋げて、焦点を当てている点も、大変学びが深まるのではないかなというふうに感じました。東京書籍のデジタルコンテンツでどのように子どもたちの学びが広がるのかということも、確認してみたいというような気持ちもいたします。

大川委員 大川です。各委員からデジタルコンテンツについてお話がありまして、この点については、教科書調査委員会の報告の機会に、私たちからも、実際に先生に、授業でどういうふうにデジタルコンテンツを活用していくんですか、または数学でデジタルコンテンツってというのはどういうふうに使えるんですかねという質問をさせていただいたところ、数学の先生が動く図形というのをしきりにおっしゃっていて、文系の私にとってみたら、まるっきり全然わからないところでしたが、要するに、ちょっと議事録に残る形だと難しいんですけど、三角形の面積が底辺と高さと同じだったら変わらないよねっていうのがありますよね。面積って底辺掛ける高さ割る2だから。そうすると、Lの字から始まった三角形が、直角三角形ですね、Lの字の形の三角形が、片仮名のへの字を逆さにしたような形の三角形に変わって、頂点が左から右に移動して行って、への字の逆さまになって、更にLの字が逆になった形に、図が変化していく。点が移動していくことによって、形が変わっていても、面積は同じですよっていう、もっとどんどん中学ですから難しくなりますけれども、そういった複雑なものを教えるのに、今、私が言ったのでは息切れしちゃうみたいな、図が動くっていうのは多分本当に学校の先生方からしたら、黒板に書いて、図を使ってっていうのだと苦労されてたところが、デジタルだと手元のタブレットでこう動くよねっていうだけで表現できるっていう、すごいことなんだなというのを、お話を聞いて実感したところでした。そのデジタルコンテンツが充実してるのが東京書籍だというような、比較して見てみると、よくわかりましたし、あとは仕事や現実と数学との繋がりというところだと教育出版も非常に評価の高いようなところでした。ただ、同じように、東京書籍も自由研究の章が結構ボリュームを持って設けら

れていて、数学と現実との繋がりを実感できるような形があったので、すごく好奇心を引き立てられるような教科書だと、これはなかなか素晴らしいんじゃないかというのが感じたところです。

教育長 はい。他いかがでしょうか。よろしいですか。はいどうぞ。

對馬委員 いただいた資料の中で、東京書籍さんの学習者用デジタルコンテンツで、133か国の翻訳ができると書いてありまして、すごくそれは私もびっくりして、今杉並にも日本語を母語としない子どももたくさんいますので、やっぱり数学って母語ではない授業を聞くのって結構難しいんだろうなと思うと、その部分だけでもちょっと、母語で補ってくれたらそれはありがたいことなのかなとは思いました。

教育長 現行、杉並区では、数学と英語でですね、デジタル教科書を入れてってというような取組をしているということで、ただ、残念ながら、数学のデジタル教科書の使用実績が非常に低いってというような現場の実態があるということです。GIGA スクール構想の中で、やっぱりその教科書の対応具合ってというのが非常に私はポイントになってきてるのかなって思います。今回、全者そういった視点で見た時にですね、これからの教科書ってこんなふうになってくるんだっていうのを予感させるのが、やっぱり数学の教科書だったんだらうなというふうに思っています。先ほど大川委員からもご指摘がありましたけども、図形がこう動くんだとかって、そういうふうなイメージだったんですけども、例えば、私はもう東京書籍一択だと思ってるんですけども、自学自習をするっていうふうな点では、フラッシュカードっていうのがあって、子どもが繰り返し繰り返し解いて知識技能が定着できるような仕組みになっていたりだとか、あと途中ですね、節ごとの基本の問題だとか、巻末の問題、そういったほとんどの問題に二次元コードがついていて、わかんなかったらヒントが出てきて、回答が出てきて、必要があったら補充問題まで出てくるみたいな作りになっているっていう。これすごいなっていうふうに感じました。もうある意味参考書なんかいらなくて、自学自習ができるような作りになっているって、ここまでやっぱり進歩してるんだなというような

ところを感じました。あと、実際杉並の中学校は全部の学校で、習熟度別少人数学習を取り入れています。そういったときに、この東京書籍の場合は、ハートマークがついて、必ず全員が学ばなきゃいけない基本問題っていうのが示され、早く終わった生徒は、補充問題に進めるような、そんな仕掛けができていて、しかもその補充問題の中に、さらに難易度の高いものには印が付いたりだとか、そんな取組まできていてですね、非常に出来がいいと感じました。委員の方からもいろいろご意見あったんですけども、東京書籍が非常にすぐれているのかなというふうに感じました。では、数学についてはいかがでしょう。東京書籍でよろしいですか。

(「はい」の声)

教育長 それでは数学につきましては東京書籍と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、理科についてよろしく願いいたします。

教育長 はい。では前田委員。

前田委員 前田です。理科ですけれども、種目別調査部会の報告では、教育出版が実験の手順などがわかりやすいですとか、思考判断、アクティブラーニングに優れているというお話があったんですけれども、私はいろいろ見させていただきまして、啓林館がすごく関心が広がるような教科書だったなというふうに思っています。サイズが少し大きいかなと思うんですけれども、そのせい情報量がすごく多いですし、写真もととてもきれいで多いので、読んでいてより関心が持てるなというふうに感じました。大きいからかページが2段構成になっていまして、参考資料とか、あと発展的な学びへの接続っていうのが、コラム的に書かれておりました。例えば3年生のページでは、惑星についての学習だったんですけれども、高校の地学ではこういうことを学びますということ、高校地学への接続が示されていたりして、いろんな子どもたちの関心から、更に深掘ったものへの接続っていうのができるなというふうに感じました。またデジタルコンテンツも割と充実しているなというふうに感じておりまして、ちょっと内容とし

ではもしかして少し難しいのかなってというのが教育委員の中でもいろいろ話しながら思ったんですけれども、子どもたちの関心の種がたくさん散りばめられているということで、啓林館が良いかなというふうに考えております。

對馬委員 理科は5者ございまして、現在大日本図書のを使っているんですけども、これは恐らく前回の検定分のものを今回拝見させていただいてると思うので、デジタルコンテンツがほとんど入っていないということが、やはりこれからの4年間学んでいただくのにはちょっと残念なところかなと思います。そういう意味ですね、他の者も見ていったときに、例えば東京書籍には各学年の冒頭に、科学の本だかっていうのが12冊ずつあって、やっぱりデジタルコンテンツだけではなくてそういうところでも学びを広げられるんだよってというのはとても感じられましたが、残念ながら東京書籍の理科の教科書はちょっと紙が薄くて、ちょっと写真とかが見えにくいとか、なんかちょっと透けるっていうのかな、そんな感じが、印象がございました。他の者と見比べたときに、今前田さんもおっしゃいましたけども、啓林館の写真がすごくきれいで、見やすく、発展的な場面としては、例えば部活ラボって、中学生部活大好きだと思うんですけど、部活ラボっていうところで、レイアップシュートのコツとか、それから噴火のところですね、火山の噴火のところには、軽石の特徴を生かして競技場とかに使われている、野球場とか、陸上競技場に使われてるよとか、そういった身近に捉えやすいようなトピックが載っていたのが、中学生にもわかりやすいかなと、楽しんで学習してもらえかなという気がいたしました。それから、理科ってやっぱり実験がとても大事だと思うんですけども、実験の流れも非常に明確でわかりやすく見開きで書かれてまして、課題があって、いきなり実験方法の計画をさせるっていうセクションもあるんですけども、多くの場合、課題があってそこに仮説があって、計画があって、そして結果、考察っていう流れにちゃんとしているんですね。やっぱりこの仮説、計画ってすごく私は大事だなと思っていますので、その辺りもとても啓林館の教科書を使ったら良い授業がで

きるのではないかなと感じました。それともう一つだけ、防災のことも結構たくさん書かれてありまして、例えば天気をもたらす恵みが左のページにあって、右のページに災害で、見開きでそれがあって、天気っていうのは良いこともあるけども、災害をもたらすんだよねっていうのが非常にわかりやすく書かれているなと思いました。

教育長 はい。では大川委員。

大川委員 大川です。私も拝見をしていて啓林館、とても面白い教科書だなと感じたところです。それぞれ委員から何回かあったように、写真や図が非常に美しいというのと、それから美しいってのは色合いだけでなく、構図だとかですね、こういう形で動物を撮るんだというような写真がすごい迫力があるので、興味を持たせる作りになっていたところが、インパクトがありました。それから、先ほど対馬委員からあったように、仮説をまず立てるっていうワンクッション。まず何か事象があったら観察をして、それがどうしてなんだろうっていう仮説を立てて、それを実験で検証して、その上で考察をするというような科学の方法をきちんとそれぞれの章で踏襲しているということから、良い教科書だと思います。

伊井委員 理科の教科書における啓林館の写真とかには、以前にもやっぱり他と、今大川委員もおっしゃっていましたが、構図が違っているなと思いました。本当にカラーもきれいだし、力を入れているのではないかなという印象を受けておりましたが、東京書籍も表紙から興味を引いていまして、コップを通して見える逆さまの女子学生さん。表紙を開くと、顔がスプーンに写っていたり、コップに逆に映っていたりっていうようなところの写真に繋がっていまして、「どう見えてる？」っていうような投げかけをしながら、表紙からの興味をつないだまま、あなたの疑問、クエスチョンマークなんですけど、クエスチョンマークはどんなクエスチョンマークですか、と問われていて、導入としてはとってもインパクトがあるなと思いました。東京書籍は探究の流れがわかりやすくて、それは啓林館と同様なんですけれども、実験の

目的と流れが明確、結果と仮説、予想は合っていたけれど、目的は解決できたのかできなかったのか、そんなときも言葉でまとめようと導いて、レポートのまとめ方、議論の仕方、情報収集、発表の仕方、参考文献の提示も促しています。先ほど科学の本だなのお話も出ましたけれども、魅力的なのが、3年生の、世界の全ては元素でできているという、新感覚の元素表で、元素の絵の中に、その元素でできた品物というか、物が書いてあって、すごく面白いなと思いました。それから、単元名に入るときに、やさしい絵でアニメのような人が簡単な言葉で問いかけをしてくれるため、その単元で何を学ぶかということがわかりやすいなと思います。教育出版は大事な言葉の文字を赤く色付けてくれているので、記憶にはすごく大事なことがここっていうところは役立つと思うんですが、写真ではなくて絵での表現が、他の2者に比べて多いため、例えばゾウリムシとか、人の内蔵器官などの図になると、ちょっと大きさ的にも見えにくいと感じてしまいます。反面、写真や図に引っ張られない良さがあるようで、調査委員会からの報告では、理科の教科書としては基本構成が徹底されていて、また一つ一つの文章表現が端的で合理的であり、レイアウト、映像資料や、実験、観察結果のサイズや色調などに多くの工夫が見られ、どの生徒にとっても見やすくわかりやすい教材となるような十分な配慮がなされている、というような捉え方もあるので、果たしてどちらがいいのかなと思います。迫力のある写真やデジタルコンテンツを見てしまうと、文字が多かったりするとやはり物足りなく思ってしまう。デジタルコンテンツは本当に迫力があったり内容も充実しているので、理科の世界として、啓林館は未来へひろがるサイエンスっていう名前も良く、資料がとても楽しく面白く、いろいろと生かせる内容で、巻末の探究マーク、その他様々なワークが示されていて、学ぶ前に捉え、学んだ後に捉え、繋がるまで学び、「それって本当？」など楽しいコラムもあちこちに記載されていて、様々な助けとなると思われます。チャレンジかもしれませんが、調査委員会の方からもこれは種目別の方だったのでしょうか。確かに最初のうちは、慣れるのに少し時間がか

かるかもしれないとの報告もありましたが、この教科書の力は子どもたちに新しい理解の世界を開いてくださるのではないかと思います。理科は啓林館が良いのではないかなと考えます。

教育長 はい。他、よろしいでしょうか。

やっぱり理科の教科書のポイントとしては、どの教科もそうなんですけれども、特にですね主体的、対話的に課題を発見して、その課題を科学的に探究していくっていうかね、そんな姿勢を育てるような教科書づくりってのが大事で、そういう点ではどの者もそういった探究っていうことにポイントを当てた教科書構成をしているというふうに思います。ただそこにはやっぱりちょっと軽重があって、例えば教育出版は学年の巻頭に探究の進め方を配置したりして、また各単元に1か所程度探究の進め方に沿った指導ができるような工夫を取り入れていたりとか、学校図書は、探究的な活動がもう紙面構成で活動順に丁寧に説明していくっていうふうな展開になっています。東京書籍は、じっくり探究っていうようなものを作って、探究のステップを細かく設定して、探究の仕方を意識した学習ができるような、そんな工夫がそれぞれされているんですけども、皆さん、良いつて言った啓林館は、教科書全体が探究する力を育てるっていうふうな構成で統一されているっていうところが、私も非常に大きなポイントなのかなというふうに思っています。また、各学年その探究実験で特設単元を設けて、それからその活動をサポートするようなシートも用意されたりだとかして、しっかりとした本当に建前じゃなくてですね、探究をさせるんだっていうようなことの意識が明確に表れてる教科書なんだろうなというふうに思いました。また、観察実験には探究の振り返りっていう点を設定されていて、とにかく生徒が自ら主体的に課題を設定して、課題解決的な学習が行えるような作りになっているというところが、非常にポイントが高いということで、私も啓林館の教科書が良いのではないかというふうに感じたところでございます。

理科については、啓林館ということではよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは理科につきましては、啓林館と決定いたします。

それではここで一時休憩としたいと思いますですがよろしいでしょうか。

(休憩)

教育長 それではただいまから、審議を再開いたします。庶務課長お願いいたします。

庶務課長 はい。それでは引き続きまして音楽（一般）、よろしくお願いいたします。

伊井委員 はい。伊井でございます。音楽一般は2者ございまして、教育出版と教育芸術社です。学習指導要領には、音楽の良さや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聞いたりする力を育成すること、というふうに書いてあります。生活の関わりにも関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むというところを目指しております。その点で、音楽文化についての関心や理解を深めていくことなども考慮し、2者拝見いたしました。中学の音楽は、表現や鑑賞だけが目的ではなく、音楽的な見方、考え方を働かせて、生活に生かしたり、他者と協働して表現したり、深めたりすることを目指しているのだと思います。東京都の調査研究資料にも、曲想と音楽の構造、背景など、音楽の多様性を理解し、主体的・協働的に表現や鑑賞の学習に取り組むようにということも書いてあります。2者どちらの教科書もその点で工夫していて、見開きの扉では有名なピアニストの方や宇宙飛行士の方、雅楽奏者、指揮者、教育芸術社の方では、歌舞伎役者、アートディレクター、人類進化学者などの方々からのメッセージなど、表現と鑑賞だけではない音楽の価値が特筆されていたと思います。例えばですね、ブルタバという演奏は教育出版の方が長く、デジタルコンテンツで聞くことができますが、デジタルコンテンツとしてはですね、教育芸術社の方が数が多く、教科書調査委員会からの報告にもありましたが、楽譜が読みやすい大きさになっています。紙質がやわらかで表面に光沢があり、文字、絵、写真の発色がよく魅力を感じる作りとのことでした。確かに2、3年での巻末の音楽年表なども大変素晴らしいもので

あり、楽譜は本当に見やすいです。デジタルコンテンツでは、歌唱の曲、歌ですね、歌唱の曲では伴奏のピアノを聞くことができます。パート練習ができる曲もあり、自分でも取り組むことができます。杉並区の中学校は合唱も盛んなので、ふさわしいのではないと思いました。1年の初めと、2、3年の下巻にある声の出し方もわかりやすいですし、各学年の巻末に音楽の学びを振り返ろうとのページがあり、みんなに勧めたい曲を選びその曲の良さをプレゼンしようとの活動も設けて、お互いに発表する時間は取れないかもしれませんが、考えるだけでもすてきな時間になるのではないかなと思いました。改めて音楽は主体的、対話的で深い学びなのだ実感しました。日本、西洋、古典、現代の様々なジャンルの音楽が少ない時間でも多方面に学習できる、また歌唱や表現、鑑賞の教材がバランス良く配置されている点も含め、音楽の一般は現行の教育芸術社のものを推したいと思います。以上です。

教育長 他、よろしいですか。はい。それでは音楽につきましては現行の教育芸術社と決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 それでは音楽(一般)につきましては、教育芸術社と決定いたします。

庶務課長 続きまして、音楽(器楽合奏)。よろしくお願いたします。

教育長 はい、前田委員お願いします。

前田委員 はい、こちらも音楽一般と器楽、どちらも関連する部分もありますし、こちら器楽に関しましても2者ですけれども、教育芸術社の方がデジタルコンテンツが充実していることもありますので、一般と同じの教育芸術社でいいのではないかというふうに考えます。

教育長 よろしいですか。はい。それでは音楽(器楽合奏)についても、同じ教育芸術社ということではよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは、音楽(器楽合奏)につきましては、教育

芸術社と決定いたします。

庶務課長 続きまして、美術について、よろしく願いいたします。

對馬委員 對馬です。美術についてお話したいと思いますが、美術って先生方からお話を伺っても教科書への依存度が比較的低くて、作品づくりの導入とか確認とか、鑑賞の時に使用されることが多いということで、生徒作品と有名な作家さんの作品、絵とか彫刻とか、両方載ってるんですけども、生徒作品についても大いに参考にしていますというお話を伺いました。美術の場合、1年生と2、3年生っていうのが合体になっている者と、1、2、3年生、分冊になってる者とがあるんですけども、分冊の方が使いやすいと伺いました。それから美術なので、文字での説明よりも、やっぱり写真とか、絵の写真ですかね、それで見て、感じてもらいたいということで、文字で全部説明されていると感性が育ちにくいというようなお話も伺いまして、そういう目で見させていただいたのと、美術の先生方が一番こだわってるのはやっぱり色、発色の良さっていうところに、一番議論が、どれがいいかっていう時にですね、議論が多かったというところで、そういう点で見させていただくと、3者あるんですけども、やはり現在使っている日本文教出版の教科書が最も発色もよくて、非常に構図もスタイリッシュで、見るだけでも十分鑑賞できるような良い教科書だなと思います。それからデジタルコンテンツもございまして、動画も見やすく、授業内でも十分に活用できそうだというお話も伺いましたので、現行の日本文教出版の教科書を継続して使っていただくと良いのではないかと思います。

教育長 はい。では大川委員。

大川委員 大川から簡単に一点だけ。美術で絵を見るときに、小さな教科書に縮小された絵を見るよりも、やはり実際の寸法ってどれぐらいなんだろうと。例えば、共通して取り上げられていたピカソのゲルニカなんか、すごく大きな壁画が取り上げられてましたけれども、それを見開き4ページを使って、こんなに大きいんだ、実際よりは小さいですけども、これだけ広がりがあるんだというようなことを、この日本文教出版の教科書は表現していま

した。また今回千円札、新しいお札の裏に、葛飾北斎の神奈川沖裏が描かれていますけれども、実際あれが本当はどれぐらいの大きさだったのかって皆さん、私たちもあんまり印象なかったんですけど、実際原寸大ってわざわざ随所随所で紹介されていて、A3判よりもちょっとちっちゃいぐらいな、これを木版画で表現したってというのはものすごい技術だし、レイアウト力だなんていうのを感じるようなことができるので、そういった工夫から、この日本文教の教科書、素晴らしいと思いました。

教育長 はい。他いかがでしょうか。よろしいですか。はい。それでは美術につきましては、日本文教出版でよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは美術につきましては、日本文教出版と決定いたします。

庶務課長 続きまして、保健体育について、よろしく申し上げます。

教育長 はい、大川委員申し上げます。

大川委員 引き続き大川から保健体育について申し上げます。保健体育は4者ありました。現行はGakkenを使っておりますが、いろいろ比較して見てみて、私としては、東京書籍が優れているのではないかと考えたところです。というのも、全体比較しても共通して、薬物や感染症対策や性の問題などの保健分野、これはほぼもう内容的に触れられているものは、項目は同じですし、踏み込んでいる内容もほぼ変わらないというところでした。ですのでその点で、明確な優劣というのとはなかったんですけども、Gakken、今使ってるものを見てみると、文字数や注釈などの情報量が、むしろちょっと細々としていて読みづらさを感じたというのがありました。それから大日本図書については、前回の採択の時に使われていた教科書と内容がまったく変わっていないというところから、統計数値なども2019年当時のものでありまして、他の教科書は2022年、少なくともそれぐらいまで皆さんキャッチアップしている中で、2019年に留まっているため必ずしも現在の傾向を反映していないというような表もあったので、ちょっと残念な点でした。それから二次元コードを使った教育という場面でも、

明らかに他者は教科書のペーパーの内容はほぼ変わっていないけれども、その分デジタルコンテンツの充実に力を注いでいたようで、そういう意味で見ると東京書籍がものすごくデジタルコンテンツも優れている。それから、各章の単元で学習課題の設定というのがありまして、それが非常に端的で見やすい。一行で、ここではこれを学びましょうの言葉遣いが非常にうまいという特徴がありました。それから東京書籍が、前回のもものも取り寄せて比較して見てみたんですけれども、東京書籍は巻末に実社会につながる事柄をまとめる工夫が增量されていまして、生活につながる保健と体育ということで、役立つ資料にもなっているという工夫が見られたので、今回は東京書籍を用いてみたほうがよろしいんじゃないかというのが私の意見です。

教育長 はい。他いかがでしょう。

對馬委員 そうですね。はい。私も実は大川さんと意見がほぼ同じなんですけれども、現在 Gakken の教科書を使っているんですが、先生方のご意見を伺ってみますと、これがあまり使いやすそうでもないような、発問の工夫が少ないとか、発展的な取り扱いが少ないであるとか、それからデジタルコンテンツもあるんだけど、ちょっと使いづらいというようなご意見が多く出まして、現在使っている教科書だからこそいろいろそういった面も出てくるのかもしれないんですけれども、じゃあ他のものを見ると、やはり東京書籍の教科書が使いやすそうだなと、デジタルコンテンツも豊富ですし、主体的、対話的で深い学びというのを、学習しやすそうであることと、協働的な新しい学び方のスタイルというのが提示されているので、教科書で提示されていることを経験の浅い先生方でも使いやすそうな教科書だなと思いましたので、今回は東京書籍に変えてもいいかなと思います。

伊井委員 私も東京書籍の保健体育について拝見しました。Gakken、それから大日本図書に関しても、サプリメントや特保について正しく理解するということの必要性や、過度なダイエットについても触れるなど良い点もありますが、大日本図書に関しては、先ほど大川委員が言ってくださった通りです。東京書籍の保健体育は

他の会社と違う点がありまして、他の会社は体育から入ってくるんですね、教科書で。東書の保健体育は逆でした。東書の保健体育は3年間保健編から入り、体と健康について学んだ後、体育編として、運動やスポーツの必要性和楽しさとして入っていきます。調査委員会からお話を伺ったときに、年間体育を150時間やっていると聞いて私はちょっとほっとしたんですけども、それだけ体を動かしているんだなと思って。その章で学習することに関しては、運動やスポーツの多様性として、様々な必要性和楽しさ、する、見る、支える、知る、という関わり方、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための多様な楽しみ方について学習しますと書かれていて、スポーツ振興計画など生涯スポーツに取り組んでいる杉並の方向性に合致していると感じました。感染症、がんなどの病気、薬物の怖さ、パソコンやスマホとの上手な付き合い方、ストレートネックなんかにも言及していて、中学生が心身ともに健康であることの大切さについてしっかり学び、考える機会であることを願うところです。友人、家族はじめ、周りの人と学びを共有することが、今後の生活にも生きていくと良いなと思っております。また巻末にスキルブックっていうのがありまして、それが見やすく分かりやすく、内容も幅広く、デジタルコンテンツで、例えばですね、専門家の方のお話を聞くことができたり、圧迫止血法や包帯法などを動画で見ることができます。正しい知識の習得にも役立ち、生徒の自主的な学習にもふさわしいと思います。巻頭で、私たちの未来とSDGs、テクノロジーの進化と保健体育のページで、ウェアラブル端末による健康管理、オンライン診療、スーパーコンピュータ富岳を活用しての感染対策、命を守るために、のところでは、情報活用として、熱中症警戒アラート、大雨、地震など災害時の情報入手なども写真で伝えていて、中学生にも理解しやすいものと感じます。生涯を通じて、たくましく生きるために必要な体力を育む、必要な健康を育む教育の推進を目指す上でも、保健体育は重要な科目であるといえると思います。生徒先生ともに取り組みやすく、教科書内容、デジタルコンテンツの充実も加味して、東京書籍が望ましいと思います。

前田委員 皆さん、お話いただいたところに、本当に私も同じところに
関心を持ったんですけれども、一つ、私としては確認したのが、
中学生は災害時の救援所立ち上げメンバーとして期待されるとい
うこともありますので、2年生の心肺蘇生のページっていうのを
結構しっかり見てみました。ちょうど先日私が心肺蘇生の講習を
受けたこともありまして、手順について見比べてみたんですけれ
ども、すごく細かく手順について書いてありました。全部の教科
書いろいろ書いているんですけれども、特に東京書籍がさっき伊
井さんからありましたけれども、実習のページとして巻末にまと
められていまして、とてもわかりやすいなというふうに思いまし
た。AED を用いてかなり具体的に、どう周りの協力を得ながら、
心肺蘇生をしていくのかという手順がありまして、すごくこの救
援所立ち上げの学習としても使えるんじゃないかというふうに思
いましたので、東京書籍がいいんじゃないかなというふうに思
いました。

教育長 はい。よろしいでしょうか。

どうしても種目別の調査委員会の方でのマイナスの意見が多か
ったということで、見直さざるを得ないだろうということで見
た結果、東京書籍を推す声が多いということで私もですね、生徒の
学びやすさという点から見たとき、やっぱり保健の授業で定期考
査の対策をするには、やっぱり教科書がきちんと充実しないとい
けないということで、そうすると章末問題等々、PDF で、二次元
コードで問題が追加されたりだとか、手厚くされている東京書籍
で良いのかなというふうに思います。

東京書籍でよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは、保健体育につきましては、東京書籍と決
定いたします。

庶務課長 はい。それでは続きまして、技術・家庭（技術分野）に
ついて、よろしくお願いたします。

大川委員 技術について大川からお話しします。技術は技術・家庭
の技術分野で、3者から出ています。現在開隆堂のものを使って

おりまして、いずれも比較してみたところ、実社会で生きる力としての問題解決する力というのを意識した編集でした。それは共通していました。その上で、教育図書が作っている教科書については、ポイントだけをまとめた薄い別冊がついていて、これは実験のときなどには便利なのかしらというところが目を引いたところですが。ただ、内容面に目を向けると、開隆堂の現行の教科書は技術科目のガイダンス、一番最初にあるガイダンスが明確でとてもわかりやすく記載されていて、レイアウト上も一貫してそれぞれの章の冒頭で小学校との繋がり、小学校で勉強したことが今これに生きてますよってということ、それから他の科目との繋がりです。技術でやっていることと他の科目、理科でやっていること、数学でやっていることってというのが関連してありますということ、その両方の繋がりがそれぞれ明らかにされているというのは、とても素晴らしいところかと。技術というと単に工作しておしまいというような、私の時はそうだったんですけども、そういった他の科目との繋がりを意識している点で、この開隆堂の教科書はとても良いと感じたところですが。以上です。

教育長 はい。その他いかがでしょうか。

前田委員 前田です。3者ありますけれども、特に開隆堂と東京書籍について、私はITが専門なところもありますのでITについての分野で見ってみました。今、ITの情報の科目が高校で必須となってきましたので、中学校でもきちっと学んだほうがいいのかというふうに思いながら見ておりました。東京書籍に関しましては、親しみやすい絵を使いながら、情報がすごく多く記載されておりまして、学ぶことがすごく多いと思う反面、ちょっと子どもたちにとっては、トゥーマッチかもしれないというふうに、見ながら思っているところでした。ちょっと多すぎるといいますか、そういう感じが見受けられました。一方で、開隆堂は書面のデザインが若干古い感じがありますけれども、押さえるべき情報を絞って記載しているような印象でして、例えば情報モラルについて注意すべき三つの視点ということが、シンプルに明確に書いてあったので、子どもたちにとっては覚えやすくわかりやすいのか

なというふうに感じております。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。

對馬委員 はい、すいません。私も、開隆堂の「テクノロジーに希望をのせて」という教科書のタイトル良くないですか。っていうか、すごく意図が伝わってくる、さっき大川さんもおっしゃったように、私たちの時代の技術家庭っていうのと違ってやっぱりこれからの時代、情報モラルとかもそうですし、そこを生きていく子どもたちのために作られているという意図がすごく感じられて、私は現行の開隆堂、また引き続き使ってもらったら良いかなと思います。

伊井委員 皆さんが触れていただいたところの通りなんですが、ここに付け加えて、未来を作るという意味で技術による問題解決という点では、問題の発見、課題の再設定、次に設計計画、次に製作、運用そしてまた新たな問題の発見ということで、技術開発の流れとともに、まさに社会を動かしている最先端の技術の数々を目にして、学ぶことの幅広さ、奥深さに目をみはりました。バイオマスにも触れていたり、先端技術に関しても相当いろんなことに触れておられます。先日ある学校で地域の支援とともに生徒が自ら活躍している子ども活動促進事業のお祭りに行ったんですけども、プログラミング部っていう部活の子たちが、スリーセブンって、数字がこうバラバラバラと3か所変わって、777になるような、ああいうゲームがあるじゃないですか。そういうゲームを自らプログラミングして、それを小学生などお客さんを迎えて活躍していました。小学校からプログラミングを学び、大分定着してきているのかなという喜びも感じつつ、技術として単元としても、コンピューターとプログラミングという単元もあり、さらに巻末の資料編でもプログラミング言語についても学べる開隆堂は発展的だと思いました。現行の開隆堂が良いのではないかと思います。

教育長 はい。よろしいでしょうか。それでは技術分野については開隆堂ということでもよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは技術・家庭（技術分野）については、開隆堂と決定いたします。

庶務課長 そうしましたら教育長申し訳ありません。ちょっと機械の調整をまた行いますので、5分間休憩をいただければと思います。度々申し訳ございません。

（休憩）

教育長 それでは、ただいまから審議を再開いたします。庶務課長お願いします。

庶務課長 はい。それでは引き続きまして技術家庭の家庭分野、よろしく願いいたします。

伊井委員 技術家庭の技術分野と同じ3者、東京書籍、教育図書、開隆堂の3者拝見しました。共働きの家庭が多い社会になっている急激な変化の中で、家庭生活は、人と家族みんなで支える時代、あるいは作っていく時代が到来しています。保育園への送迎で見かける、お父さんお母さんの割合も今やほぼ変わらないですし、父親母親が同等に家事に参加するようにはなっている。興味関心も進んでいるものかとも考えられます。調理、裁縫、洗濯初め、基礎基本の知識に関して、どの教科書も豊富で、単元も話題的にも多岐に渡り、甲乙つけがたい構成となっていたと思います。消費生活、環境という単元は、公民で成年年齢が18歳となり、可能になった契約があり、総合的でかつ重要だと捉えられ、消費者教育にも繋がります。開隆堂の教科書では、話し合ってみようという活動として、スニーカーを例にとって、何を重視して購入するのか、使う目的、価格、品質などを整理し、比較して考えてみる。そしてどれを選んだか、なぜそれを選んだか、周りの人と話し合ってみる、面白いトライアルだと思いました。学習指導要領における家庭分野の目指すところは、生活の営みに関わる見方、考え方を働かせ、衣食住に関する実践的、兼体験的な活動を通して、より良い生活の実現に向けて生活を工夫し、創造する資質能力を育成することとあります。地域の人々と協働し、より良い生活の実現に向けて生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。私はこのことは更に結果的には、自立と共生を目指すこ

とになると思うのですが、この観点で見ていくと3者それぞれに特徴があります。まず教育図書、始まりの「年中行事と私たちの暮らしのつながり」というページがとても良くて、日本ならではの行事からバレンタイン、ハロウィン、クリスマスまで入って、身近に感じられるようにしつらえたなと思いました。多様性の意味で、世界、またSDGsにも目を向けていて、繋ぐ、繋がる家庭分野、自分の成長と人と人との繋がり、そういうライフプラン的な捉え方が、関わりを大事にしてきた杉並の教育として理解しやすいのではと思いましたが、デジタルコンテンツの使い勝手は物足りないと思いました。東京書籍は、家庭分野の見方、考え方という点で、家族家庭生活について、特に家族構成の分析をアニメの家族構成において考えているのが面白く、これはアニメというのはサザエさんとかクレヨンしんちゃんとかなんですけど、面白く、中学生がわかりやすいと感じました。「自ら生活をつくる」では、食生活、衣生活、住生活に分け、取り組んでいくのですが、いわゆる調理のページは、種目別調査部会から、本文と資料の文字が混在しているような印象を受けるため見づらい、写真の発色も含め少し工夫が必要とのお話もありました。住環境では隈研吾さんのコメントが載っていたり、家庭内事故の現状にも言及していてとても良かったと思います。衣生活では資源や衣服と環境という項目で、リペア、リフォーム、リメイクの3Rにも触れているし、江戸時代が物を大切に、最後まで使い尽くす循環型の社会だったことは、社会科にも繋がっていると思いました。消費生活の単元は、東京書籍、開隆堂とも豊富です。開隆堂はデジタルコンテンツが保存できて書き込みなどできる作りで、初めにガイダンスがあって、広がる家族、家庭と地域、環境の学び、見開きの絵で、自分から周りに関わりが広がっているのがわかります。ヒト、モノ、コトに関わるのは、社会科学、自然科学にも繋がり、地球環境や災害、少子化問題、経済活動など、日常生活で起きている問題の本質を見極め、具体的に考える力としています。何を学ぶのか、学べるのかを掴み、持続可能な社会、自立と共生を目指しています。単元が家族、家庭、地域から始まり、家族にもい

ろいろな形があること、様々な暮らし方として、可能な限りいろいろな家庭環境の生徒への配慮があるとも感じました。赤ちゃん触れ合い事業や職場体験で保育園へ出向く取組をしたり、防災とか地域活動に参加する機会もある杉並の中学生は、早い段階で、この人との関わりの広がりを学習しておくのは望ましいのではないかなと思いました。また子どもの権利条約についての記載がありましたので、杉並区でも子どもの権利条例制定に取り組んでいるためマッチしていると考えます。調理関連の写真が大きく、色もきれいで見やすいので、私も作りたいメニューがいくつもありました。ある学校で住まいにおける環境学習の授業を拝見していますが、住環境についても詳細で、杉並区にも公園に設置されているんですけど、防災時にかまどになるベンチなのですが、それについても写真が載っていたりして学びが広がっています。消費生活の単元は見開きで解説しながら、内容的にも丁寧に扱われています。防災時のローリングストックについて、フェアトレード、フードバンク、スローフード、カーボンフットプリント、教科書アンケートで読んだ方が感心したと書いておられたエシカル・グリーンコンシューマーなど、多岐にわたった学習の源となる、総合的に開隆堂の教科書が良いのではないかと思います。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。

大川委員 私も開隆堂が適切だと考えました。消費者教育というところに注目して見てみると、教育図書が他よりもページ数が相当多く割いていて充実してると感じたところなんですけれども、内容を解きほぐして見てみると、開隆堂の方はレイアウトや図を効果的に使うことによってページ数を取らずに理解しやすくするという工夫がされていました。それから中学生ですので、未成年者取り消しができますよと、18歳に成年年齢が引き下げられても中学生は未成年を理由として取り消せるんだということを前提で教えているんですけども、でもそれ、できなくなっちゃう場合があるから気をつけてね、というのをすごく端的に、スマホであなたは18歳以上ですかというところで、イエスと押さないと先に進めない、ゲームできないと。それで押しちゃうと、嘘ついているわ

けだから、取り消しできなくなる時がありますよということを、中学生にわかりやすく教えていたのがこの教科書でしたので、そういった意味からも、とても子どもたちにとってわかりやすい、生活を教えられる教科書だと思いました。

教育長 はいどうぞ。

對馬委員 先日目にした記事で、大人になってから何を一番学習しとけばよかったかっていうアンケートがあって、女性の第2位が家庭科だったんですね。すごくそれはわかるなと思ったんですけども、家庭科ってやっぱりデジタルコンテンツとか動画とかもとても大事だと。有効に活用できると思って。そうやって見ていくと、製作物、いわゆる被服の部分ですよ、動画でわかりやすいし、調理の部分もわかりやすい動画でありました。ただ東京書籍、情報量が非常に多い分、一つ一つの写真とかがとても小さくて、それが残念だなと思いました。ただ全体に調理とか製作とかする時ってやっぱり危険も伴うので、それについていつも気をつけようっていうページがあることはとても良かったと思うのですが、開隆堂の方には、製作の基礎基本を知ろうっていうところがすごく見やすくまとまっている見開きがあったこと、それから小さい子との触れ合い体験も事前学習から事後までとても丁寧にそこが書かれていたので、私も開隆堂を使ったら良いかなと思います。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。それでは家庭分野については、現行の開隆堂出版でよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。では技術・家庭（家庭分野）につきましては、開隆堂出版と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、英語について、よろしく願いいたします。

教育長 私からまず、英語についてはちょっと問題意識を持っておりまして、まず杉並区はですね、早くから小学校英語に取り組んで先進的な取組をしてきたんですけども、やっぱりなかなか変わらない中学校の英語の授業の現場っていうのはあるっていうふうに、これはどこでも言われていますけれども、やっぱりどうして

も日本の英語教育そのものが、インプットに寄りすぎていた、その反省から小学校英語の充実ってということが言われていたんですけども、現在なかなかやっぱり高校入試等を言い訳にしながら、変わらない中学校の英語の授業、いわゆるインプット中心、文法事項中心というふうな現状があるかというふうに思います。そういう意味で、やっぱり中学校の英語の授業の改善というのはやはりしっかり図っていかなければいけないだろうっていうのが一つ目。あと二つ目は、英語嫌いが増えて、成績が二極化しているっていう現実です。残念ながら、中学校、今まで小学校英語がないときには、中学校になったら英語頑張ろうって目をきらきら輝かせて、アルファベットの勉強をしたりだとかっていう実態があったんですけども、残念ながら小学校の段階で既に英語嫌いの子どもたちが複数存在するような状況があると。で、これも複数の小学校から入ってくる中学校になると、小学校の学校間格差が存在してしまっていて、なおかつ、杉並区の場合は、小学校の上位層の4割の子たちが国公立に受験して抜けてしまうっていうこと。そうすると、アクティビティー中心の英語の授業を小学校でやってきた、その積極的に活動していた子どもたちが抜けた状態で、英語が嫌いだとか苦手意識だと思っている子どもたちが、公立の中学校に来て、そこで、英語の授業がスタートするっていうふうになる。とすると、中学校の入学時に英語学習に対する意識を、そういったマインドセットをリセットするような、そんな取組だったりが必要になってくる。中学校に入って英語を頑張りたいと思えるような、そんなような取組をますます重視することが、今の杉並の子どもたちにとっては重要なんじゃないか。わかる英語の授業へ、楽しい英語の授業へ。そのためには、やっぱり易しい、親しみやすい、自学自習できるような、そういった英語の教科書みたいなものが、杉並区には私は求められているんじゃないかなっていうふうに思います。そんな観点で教科書を見てみました。まず親しみやすい教科書ということで、小中の接続のところ、もう随分長いこと小学校でやってきて中学校に入ってきてどうかっていう点で見ると、例えば東京書籍は、ユニット0ということで5

ページ分割いて、挨拶だとかが始まっています、非常にあっさりした導入でございます。三省堂はサイロトークだとか、いろいろなものが工夫されているんですが、小学校で学んだ語句の一覧がバーっと出たりだとかして、やっぱり最初ぱっと見ると、これだけの単語、覚えてないや、と負担感があるんじゃないかなって感じたりもします。教育出版、15 ページ分作られています、挨拶、会話を聞く、アルファベットといった流れで、はっきり言って非常に工夫のない作りになっているんじゃないかなというふうに。開隆堂はですね、会話を聞くだとか、インタビューだとかってあるんですが、せっかくの二次元コードが、音声読み上げだけですね、ここも非常に工夫のないポイントだというふうに思っています。啓林館については7 ページを割いていますが、ここはもう会話、コミュニケーション、アルファベットが出てるだけで、小学校の振り返りが十分できるような作りにはなっていない。その中で光村の教科書は、最もページ数も多く 19 ページを割いていてですね、様々な取組をしています。音声と実写で親しみやすい取り組みだったり、実際、友達を作ろうというふうな作りで、ルーレットを楽しみながら英語が使えるような工夫がしてあって、そういった小中の接続だったり、中学校でもう1回頑張っただけで楽しくやりたいって思わせるような作りは、光村ができてるのかなというふうに思います。易しさはどうかっていうところで、1番最初のユニット1のパート1の単元を見てみるとですね、小学校英語を前提にしているの、例えば東京書籍だとか、三省堂は、もういきなり be 動詞と一般動詞から入ってくるんですね。それに対して光村は、be 動詞だけ、その次のパート2のところを見ると、三省堂は be 動詞と一般動詞の疑問と否定、東京書籍は一般動詞の疑問と否定が入ってくるんですね。光村は一般動詞の肯定と否定とかが入ってくるというふうに入ってきます。ユニット1、ユニット2の中身を見てみますと、東京書籍はそこに he とか she とか三人称のものが入ってきてしまったりだとか、あるいは this とか that っていう指示語の内容まで入ってくる。三省堂についてはパートが一つ少ない中で、さらに三人称だとか what まで入ってきているって

ということで、やっぱりその易しさっていう点で見ると、光村はスモールステップで無理のない構成になっているっていうふうには私は読み取りました。3点目を、じゃあ実際英語の教科書で自学自習できる作りになっているのかっていう点で見ていきますと、東京書籍は本文、それから語句ともにですね、もう二次元コードがかなり充実していて、自学自習に必要なコンテンツは十分そろっているというふうに思っています。三省堂もですね、チェックが二段階構成で解説と練習に分かれていて、これも自学自習はしやすいような形になっています。また、新しい単語については全単元共通で練習できるような作りになっております。光村については、キーセンテンスの解説がですね、ここは非常に作りが良くて、登場するキャラクターで、親しみやすく学べるようになっていて、また学んだことを自分で置き換えて表現できるような展開になっている。実際、実写を取り入れて、中学生が出てきて、状況が実践的で子どもたちの興味関心を高めやすいような工夫もできているんじゃないかなっていうふうに思います。そんなところから見て、現行東京書籍ですけども、子どもたちに改めて英語の楽しさを学ばせるっていうことで、私は光村の教科書が適しているんじゃないかなというふうに考えました。他いかがでしょう。

はい、大川委員。

大川委員 大川も検討したところをお話したいと思います。私はまず、学習指導要領で外国語科目については、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことっていうこういう順番でわざわざ書いてある。まず聞くっていうのが先に出てきていて、今の外国語教育は、聞いてから読んで、そして話して書くっていう、書くが一番最後ぐらい、位置付けじゃないんでしょうけれどもそういう順番で構成されているんだということを今回新たに知りました。その上で、学習にどう役立てていったらいいのか、それぞれの分野で使えるかしらというのを見ていったんですけど、それぞれの教科書がキャンドゥーリストという、ここまで自分ができるようになったよねっていうのを、恐らくこれ、ちゃんと全部置いているようです。自分ができるようになったところをチェックリスト形式でやって

いって、全部できるようになるまで頑張ろうというようなものなんですけど、その作り方がそれぞれ工夫されていて、基本的には1年から3年まで連続した一覧表のような形になっているとか、それも子どもによっては宿題一覧表みたいな感じでちょっといやかもしれないなと思いつつながら、ただ、東京書籍は小学校でやったことから、中学卒業して、今度高校の教科書だと高校ではこういうことに繋がりますよってという全体的な位置付けまで示しているのは、すてきだなと思ったところです。光村は、他の学年との連動は一覧には多分わざとしていなくて、この学年でやるのがこれですよっていうのを教科書の一番後ろの方の見開きで示しているんです。ただ工夫は、ガントチャートっていうんですかね、縦軸と横軸で、今こうやったらこう話せるようになる。これをやったらこう読めるようになる、ここをやったらこう書けるようになる、というのを、学ぶこととできるようになることをクロスさせて、そこをやるためには教科書のどこを見たらいいのっていう、すごくうまい工夫がされていました。なので、自分のできないところを見つけて、そこを補っていくっていうのが多分、勉強の基本的な丁寧なやり方だと思うので、それが一番自分でもできる教科書かしらと思ったのが光村です。あとはですね、単元ごとに構成がどうなっているのかなと見ると、三省堂がそれぞれのパートが、さっきの学習指導要領の聞く、読む、話す、書くっていう順番にすごく忠実にそういう順番で構成されて、それが繰り返されているということでしたから、教科書的には正解というような感じの構成だと思いました。東京書籍は楽しく勉強できるようなビジュアルをすごく押し出しているというような教科書です。光村は、単語や文法のコメントが、本文が左側にずらっと書いてあると、右側に新しく出てきた単語とか、ここで学んでおく文法という注釈があるんですけど、その配置が全部統一されているんです。他の教科書だと、こっこのページだと右下にあった、こっこのページだと左下にあるみたいな形で、ちょっと散らかっちゃうんですけども、必ず右側を見れば新しい単語が出てきて、そしてそれには発音記号がちゃんと書いてあるんで、日本語訳も

書いてあったり、そういった統一性が光村は感じられたので、付録なども活用していくと、ちゃんと自分で勉強していく教科書なのかなと思いました。あともう一つは、先生方に聞いたら、やはり机の上が狭くて、タブレットと併用していくと机から教科書とタブレットがはみ出ちゃって、それをどうにかするのも一つの課題だというお話があったんですけども、教育出版と光村が一回り小さいサイズを採用していて、そういった意味でも、変えるのであればこの小さいサイズの方が現実に合っていくのかなと思ったところです。あともう一つは、今の三省堂が、聞く、読む、話す、書くに忠実だっていう感じなんですけど、光村は多分あえて読むが先に来て、一定の長さの文章が各章の一番最初にあるので、それを自分で予習じゃないですけど読んでいって、その上で、教室で音声を聞くというような形で、目から入っていく勉強の方が確実に頭に入りそうだなというイメージから、この光村の教科書の方が私は良いのではないかと考えます。

對馬委員 英語に関しては、私たち教科書採択にあたって、学習者用デジタル教科書の見本版というのも併せて拝見しました。そうやってきた時に、やっぱり紙の教科書だけ見て考えていた時とやっぱりちょっと状況が違うなと思ひまして、今、東京書籍のニューホライズンというのを使っているんですけども、これはもちろんデジタルコンテンツもとても良かったですし、さっき教育長がおっしゃったように小学校の確認から入ってきて、聞く、そしてキーセンテンスがあってそれを確認して話す、書くっていう順番が多いんですけども、すごく学習しやすいのかなと。トピックも1年生の時に、自分とか学校とか、身の回りからオンラインで海外交流したりして、2年生で海外の暮らし、3年生で世界に目を向けるというふうになっていて、これは非常に発展的で世界に広がっていく感じがいいかなと思いました。このデジタルコンテンツを見たときに、やはり東京書籍ともう一つ優れている、面白いなと思ったのがやっぱり私も光村だったんですけども、実写版とイラスト版があって、同じ内容なんですけれども、見やすい方、学習しやすい方で学習できるのと、字幕付きが良いとか字

幕なしが良いとか、いろいろ選べたりしまして、これはわかりやすいかなと思いました。それとですね、デジタルコンテンツとちょっと離れますが、光村、教科書の巻末に英語の仕組みっていう、まとまったところがあるんですけども、やっぱり英語って文法も大事だと思うのですが、これがこの英語の仕組みという中で非常に視覚でわかりやすくできていて、例えば日本語とは違う時間の表し方、現在、過去、過去分詞とかね、あまり日本語にないようなこと、それから語順も日本語と違うし、数えられない名詞とか、名詞に複数形があるとか、それから前置詞の in とか on とか、あまりこう日本人がそれまでなじみのなかったようなものが非常に視覚的に色分けとかマークとかでわかりやすく出ているので、有効に学習できるかなと思います。ただ現在使っている東京書籍も、私は悪くはないとは思っているんですけども、ただ先生方のアンケートの中に、単元の数が多いということで、光村は8単元なんですけども、東京書籍は現在11単元、1個減って10単元にはなったんですけども、ちょっとこれが扱いづらい、扱いに困っちゃうぐらいちょっと多いんだというようなご意見がありましたので、その辺を踏まえると、東京書籍もいいなと思うんですけども、光村に変更しても、皆さんのご意見でとは思いますが。

伊井委員 教育長はじめ、大川さん、對馬さんがいろいろ言ってくださったので、私は一点だけ、中3になりますと受験がありまして、教科書調査委員会の方から、長文が東京書籍は少ないんじゃないかというご意見、確か報告があったと思うんですけども、その点でいくと、三省堂は相当長い長文が入っているんですけども、光村は、3年生用がとても活用できそうな教科書のつくりになっていて、最後の方にアクティブワーズっていうところがありまして、手や体の動きなども表現できたり、例えばエクスペリエンスのところ、「go hiking」、「swim in the sea」などという、まとまったものの言い方とかも整理がちゃんとできています。またレッツリードモアということで、2ページ分ぐらいの長文から、だんだん増えて、巻末に向けて更に長い長文の形になっているので、これを生かしていけば、長文の練習もできるのかなと思

っております。光村図書の教科書を推したいと思います。

前田委員 私も、今まで皆さんがお話しいただいたところにすごく共感するところなんです、一つ追加でお話しすると、私の子どもが今高校生でして、中学校の時の成績を見ると、やっぱりさっき教育長がおっしゃったように山が二つできるような、そういう、一つが英語の教科の特徴だなと思っているのと、今度中学生になる娘もいるので、この子たちがどんなふうに学んでいくのかっていうのをちょっと具体的に考えながら思ったときに、教育長がおっしゃるように、やっぱりこう、小学校でやってるんだけど、またちょっと毛色の変わった英語になっていく中で、うまく接続していくってすごく大事だなと思ってですね、やり直すっていう新しいリフレッシュした気持ちもあるんですけども、やっぱりなんか急にそこで難しいものになるんじゃないかと、小学校の時にやってきたことを上手く利用しながら、中学校でリスタートできるといいのかなというふうに思っております。先ほどあったデジタルの教科書を見たときに、やはり光村が画面の中で、例えば二次元コードをクリックしたときに、スムーズに次の画面が出てきたりですか、あと、しゃべっている動画があるんですけども、1個目の動画は画像は何も出ないで言葉だけ出てきて、次はちゃんと絵も動いてくるみたいなことも選択ができたりしまして、いくつか子どもたちが学びながら、学び方を変えながら、会話、聞くとか読むっていうところに向き合っていけるんじゃないかなというふうに思いました。子ども達はやっぱりもう、いきなり小学校から高校受験に向けた塾なんかに入る子たちがいるんですけども、やはり塾はまだまだこう、文法を中心とした塾が多いのかなと思っているので、そういう、会話を大事にする、聞く、読むってところからスタートする中学校の英語が、楽しいものであると、学んできた子にも新しい学びができるんじゃないかなと思ったので、今回、光村で新しい学びが杉並で始まるといいなと思って、私も光村を推したいと思っております。

教育長 はい。ほか追加でよろしいでしょうか。英語については光村ということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは英語については光村図書出版に決定といたします。

庶務課長 それでは最後の種目になります。道徳につきまして、よろしくお願いいたします。

對馬委員 道徳は7者ございまして、以前に道徳が教科化された時と比べると、すごく大分似てるような感じになってきたなっていう印象が、実は私的にはございました。で、道徳の場合、発問っていうのがとても大事で、国語とかとは違うので読み取りではなくて、やはりその一つの思考の方向にまとめていくのではなくて、それぞれがどういうふうに考えるかっていうのを大事にするという教科だというふうに思いますので、そうするとやっぱり、教材の発問っていうのはすごく大事になってくると思いますので、そういう点で拝見していきましたら、やはり発問がちょっと一つの方向にまとめていくような感じの発問のものもございましたので、そうではないものもいいなと思います。それからやはりこれもですね、さっき他の教科でも出ましたが、先生方からすると、判が大きいと、タブレットを机の上に置いて使ったときに、やっぱりそんなに大きくない方がありがたいなというようなお話もありました。それから教科書は分冊があって、子どもたちに書いてもらうようなノートみたいな分冊のものがある教科書もありまして、ただそれについては本当に分冊でも分冊じゃなくてもいいし、分冊だとそれだけを集めることもできるので便利ですよというようなお話もありました。そういった目で7者拝見していった時に、光村はちょっと発問が国語っぽいような、まとめていくような部分がいくつかありましたので、私としては今使っている東京書籍か、あるいは日本文教さんも結構今回、発問は割と広がっているオープンクエスションのものが多かったかなという感じがしまして、日本文教さんのと東京書籍さんを比べた時に、日本文教の方は分冊の道徳ノートっていうのがあるんですけども、これは発問の欄が空欄になっていてですね、空欄だということは、先生、指導者の方が、子どもの実態を見ながら発問を考えていくことが

できるのではないかなと感じます。そうなったときに、全く新しい新人の先生だと使いにくいのかなと思いましたが、教科書の本体の方には一応発問の見本といたしますか、それが二つぐらい載っていますので、それをそのまま使ってもいいし、工夫して使ってもいいしということであると、サイズも東京書籍より一回りちょっと小さくなっているのので、この日本文教に変えてもいいのかなと思いました。皆様のご意見を伺えればと思います。

教育長 はい。では大川委員。

大川委員 今對馬委員からお話ありましたように、現在、東京書籍を使っているんですけども、それもデジタルコンテンツまで含めた一覧性があるって、それから心情円っていう、あんまり聞かないと思うんですけど、後ろに付録のような切り抜きで、円の紙を二つ組み合わせることによって、自分の気持ちは今、ポジティブなのかネガティブなのかっていうのを話し合うためのツールとして一貫して使っていこうというような試みが、面白い試みだと思います。それから日本文教出版は、別冊書き込みのノートがありまして、これは先ほど技術の科目と同じように、別にすることによる目新しさとか、また薄くなるし簡易になるっていう意味でも、教員も使いやすくだらうという評価もありました。ただそのちょっとした工夫のところでは決めるよりも、やはり内容の方を見ていきたいと思って、全部見比べたところでした。私は人権擁護委員も長年やっていますので、いじめ防止には啓発活動というか、教育をしていくっていうことが一番重要だし、それから今杉並区もそういった取組をしているということから、どういうふうにいじめに対して取り組んでいる教科書なのかと見ていきました。そのためには、今の東京書籍は、丁寧な議論をして、子どもたちが話し合っ、どういう立場だったら、こういうふうな行動をして、それに対して、反対にその対象にされた子どもはこういうふう考えたかっていうロールプレイを必ずするようにしていくってのは、これはすごく必要なことだと思っています。それに加えて、先ほど出てきた日本文教出版の教科書はとっても面白い視点で、まず自分と他人っていう複合的な視点をちゃんと明確にして、

いじめ問題を考えようと。自分はこう思うけれどもそれって他人から見られたらどうなるのかなっていうところを据えています。それ以上にすごいなあと思ったのは、1年から3年生までを通じて、心理学的な理解とか知識っていうのをすごく積極的に取り入れていて、私が読んでも、こんなことまで、こういう視点があるんだっていう、すごく勉強になる内容でした。例えば、1年生では、情動の理解、自分で自分の気持ちを理解することによって怒りをコントロールしましょう、アンガーマネージメントって、最近はやりのことを中1で教えてくれて。2年生では、対人認知ですね。発言したら、人が何かぷいっと見たときに、自分のこと嫌いなんじゃないかと思うんじゃないかと、忙しかったのかなって思い直してみようっていう認知論を前提に、「べき思考」までですね、こうしなくちゃいけない、こうあるべきだというのが、いじめに繋がるよっていうことも教えてくれるし、3年生ではコミュニケーションで、傾聴論までしっかりと含めて、人の話を聞く工夫という技術があるんですよっていうように、我々大人でも十二分に役立つ内容が盛り込まれていました。こういった取組をすることは、今まで、さっき対馬委員がおっしゃったかな、道徳の教科書が変わってきているっていうのが、いわゆる良い話が盛り込まれた読み物としての教科書だったときから、どんどん変わっているところなのかなと思ひまして、道徳っていう科目にも、学問的とか理論的な背景があるからこういうふうなことを教えているんだよっていうことをきちんと科学的に説明できる、とても良い教科書だと思ひましたので、私は変える必要があるとしたら、この日文の教科書にしてもらいたいと思ひます。

伊井委員 発言に先立ちまして、先ほどの保健体育のところの発言の中で、体育の時間数なんですけれども、150時間と申し上げましたが、105時間の誤りでございます。お詫びして訂正いたします。申し訳ありませんでした。

今お二人のお話をお聞きしまして、私もこのところのいじめであつたり不登校ということは、大変気がかりに思っております。教科書の中に「魚の涙」という話題と、それからもう一つ、いじ

めについて触れている、同じ教材に触れているものがありますので、その発問の部分だけを比較してみました。日本文教出版に関しては、「さかなクンが、中学生のときいじめに接した経験から考えたことは、どんなことだろう」。もう一つ、今度は自分を見つめる方ですね。それは「いじめのない集団であるためには、どんなことが大切だろう」。光村は、「考えよう。誰かが不公平な状況にあるとき、あなたは、どんな考えがもてるだろう」、「いじめの子たちに、なんで？ときけなかった僕の心の中を想像しよう」、「僕は、どんな思いから、広い空の下、広い海へ出てみましよう」といっているのだろう、「見方を変えて、部活動で仲間外れにされた子にとって、僕は、どのような存在だっただろう」と、更にここまで広がった発問になっています。あかつき教育図書は、「いじめについて話し合ってみよう、いじめが起きるのはどうしてだろう」というような感じで、一つの同じ話題でも発問が広がってきてしまったり、それから単純だったものが、もっとこう突っ込んだような形、あるいは答えを求めるような形になってしまうというところに、ちょっと課題があるのかもしれないと思っております。日本文教出版さんは、1年の20番のところに、「三人の乗客」という教材がありまして、「ある日、偶然同じ電車に乗り合わせた三人が、そのときのことを新聞に投稿しました。皆さん、なぜこのようなことが起きたのか、考えてみてください」。三人がそれぞれ別の立場から、一つの事象を考えているというような設定の教材です。「人にはそれぞれの事情や考えがあります。それらを理解し合うことの大切さは分かっているはずなのに、うまく理解し合えないことがあります。皆さんは、このことをどう考えますか」という、とてもちょっと自分でも振り返るような思いをする作品でした。日文さんはそういう意味では、少しく心が、融通が利くような考え方を発問しているのかなというふうにも思いました。ただですね、先日ある学校で道徳の授業を拝見しましたがけれども、その先生方の取り組み方とか、それから今回、ここにも東京書籍が取り組んでいる、グループ活動みたいな感じで、この教材に触れていたりですね、その教材へ

のアプローチの仕方も様々に工夫がされてきているのかなという印象でした。道徳という教科が教科になって、やがて6年が経とうとしていますがけれども、教材を読んで、あるいは聞いて、思いを伝え合う、一つの価値観を押し付けない、答えは一つではなく、というよりも、答えを見つけるのではなくて、教材を使って他者と自分を見つめてみる、多様な意見を聞き合い、共有する、議論する道徳として、先生方と生徒の間にも定着してきたのではないかなと思います。そういう意味では、その教材の善し悪しとかそういうことではなくて、もう少しゆったりと考えることもできるのではないかなというふうに思いました。教材を使って、他者といろいろな思いを共有するという点での、道徳的な発展ということも視野に入れまして、日本文教は良いのではないか思っております。

前田委員 皆さんのお話を伺いながら、私が特徴的だなと思ったのが東京書籍なんですけれども、いじめをなくすためにといいところで、スマホでの会話を例にどんな気持ちになったかというのを考えたり、いじめられたりいじめている人を見たらどんなことをしたらいいか、どんな相談をしたらいいかという具体的なアクションが見える学びがあったのがすごく印象的でした。私の子どもに小学生の子どももいますけれども、本当に SNS のトラブルが日常的に起こってしまっていて、SNS のグループの中で誰かの振る舞いからけんかのようなものが起こったりってことは、もう実際に本当によく起きることなんだなというふうに思っているのも、また、その SNS という場所で、言葉で言うんじゃなくテキストというニュアンスが伝わりにくいコミュニケーションが、今本当にメインになっているので、その中で、すごく具体的にどういうアクションをしたらいいかということが提示されている東京書籍の2年生の分野は、すごくわかりやすいなというふうに思いました。一方で、先ほど大川委員からありました、日本文教出版さんの3年に渡って、いろいろ自分の気持ちをマネジメントしたりとか、議論がいじめに繋がるとか、そういう構造的にどんなふうにこれを対処したらいいかっていうところを、物語を読んで何かを感じ

るだけじゃなくて、そこに良い手段が提示されているということは、すごく子どもたちにとって、オープンな、助けになるような、何かそういうツールが提示されているっていうことが確かにそうだなというふうに思いましたので、そういうところまでアプローチしている日本文教出版さんは、すごく良いなというふうに、お聞きしながら思ったところです。

教育長 はい。他よろしいでしょうか。

私もですね、杉並区はとにかくいじめの授業を年間3回やってくださいっていうようなことを徹底していますので、いじめの単元の扱いがきちっとこうユニットとして、まとまりのある日本文教出版が良いのかなというふうに感じているところです。道徳については、日本文教出版ということでもよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

教育長 はい。それでは道徳につきましては、日本文教出版と決定いたします。

それでは以上ですべての種目が終了いたしました。ここで再度、種目ごとに確認をしてから、最終的な決定をしたいと思いますので、庶務課長、すべての種目について発行者名の読み上げをお願いいたします。

庶務課長 はい、それでは先ほど決定いただきました発行者名を種目別に改めてお知らせをいたします。国語、光村図書出版。書写、光村図書出版。社会（地理的分野）、帝国書院。社会（歴史的分野）、帝国書院。社会（公民的分野）、帝国書院。地図、帝国書院。数学、東京書籍。理科、新興出版社啓林館。音楽（一般）、教育芸術社。音楽（器楽合奏）、教育芸術社。美術、日本文教出版。保健体育、東京書籍。技術・家庭（技術分野）、開隆堂出版。技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版。英語、光村図書出版。道徳、日本文教出版。以上でございます。

教育長 はい。ありがとうございました。それでは、採決いたします。議案第48号につきましては、ただいま読み上げた通り、採択することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、異議がございませんので、議案第 48 号につきましては、そのように決定いたします。

庶務課長 それでは引き続きまして、日程第 2、議案第 49 号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和 7 年度使用）の採択について」を上程いたします。済美教育センター所長からご説明申し上げます。

済美教育センター所長 引き続き私から、議案第 49 号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和 7 年度使用）の採択について」、ご説明いたします。特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律等の関係法令に基づき、毎年採択を行っております。また、特別支援教育の教科用図書の採択については、学校教育法の附則第 9 条の規定に基づいて行っておりますが、特別支援学校については、学校教育法施行規則第 131 条第 2 項、特別支援学級については同第 139 条において、一般図書を使用することができる」と規定されております。中学校教科用図書の調査研究と同様に、規則、要綱、手引きに基づき、特別支援教育教科書調査委員会を設置するとともに、特別支援学校及び特別支援学級からの報告を参考に、合計 726 点、都の調査報告書にあります 698 点、一般図書 2 点、文部科学省著作物 26 点の図書について調査研究を行いました。調査研究結果につきましては 7 月 26 日に、特別支援教育教科書調査委員から、教育委員へ調査報告書とともにご報告させていただきました。提案理由でございますが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条の規定に基づき、特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それではご審議の方、よろしく願いいたします。

對馬委員 これに関しましては、例年のことだとは思いますが、一括して私たちが採択をさせていただいたものを、現場の

先生方がそれぞれの児童生徒に最適なものを選んでいただいで使っていたいただいでいると伺っていますので、ご提案通り一括で採択してもよろしいかと思えますけどもいかがでしょうか。

教育長 よろしいですか。はい。それでは他にご意見等よろしいでしょうか。議案の採決を行います。議案第49号につきましては、特別支援教育教科用図書採択候補一覧の通り採択することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、異議がございませんので、議案第49号につきましては、そのように決定いたします。それでは、以上で本日予定されておりました日程はすべて終了いたしました。庶務課長、何か連絡事項がございましたらどうぞ。

庶務課長 次回の教育委員会の日程でございますが、8月28日、水曜日、午後2時からを予定しております。よろしくお願ひいたします。また傍聴人の方にお知らせをいたします。本日の資料につきましては、受付にお返しいただくようお願ひをいたします。なお、資料をお持ち帰りいただく場合は有料となりますので、代金を受付でお支払ください。また、本日の採択結果につきましては近日中に杉並区公式ホームページに掲載する予定です。お知らせは以上でございます。

教育長 本日は教育委員会の運営につきまして、音声等に一部支障が出て、特に別室の皆さんには大変ご迷惑をお掛けいたしましたことをお詫び申し上げます。それでは本日の教育委員会を閉会いたします。